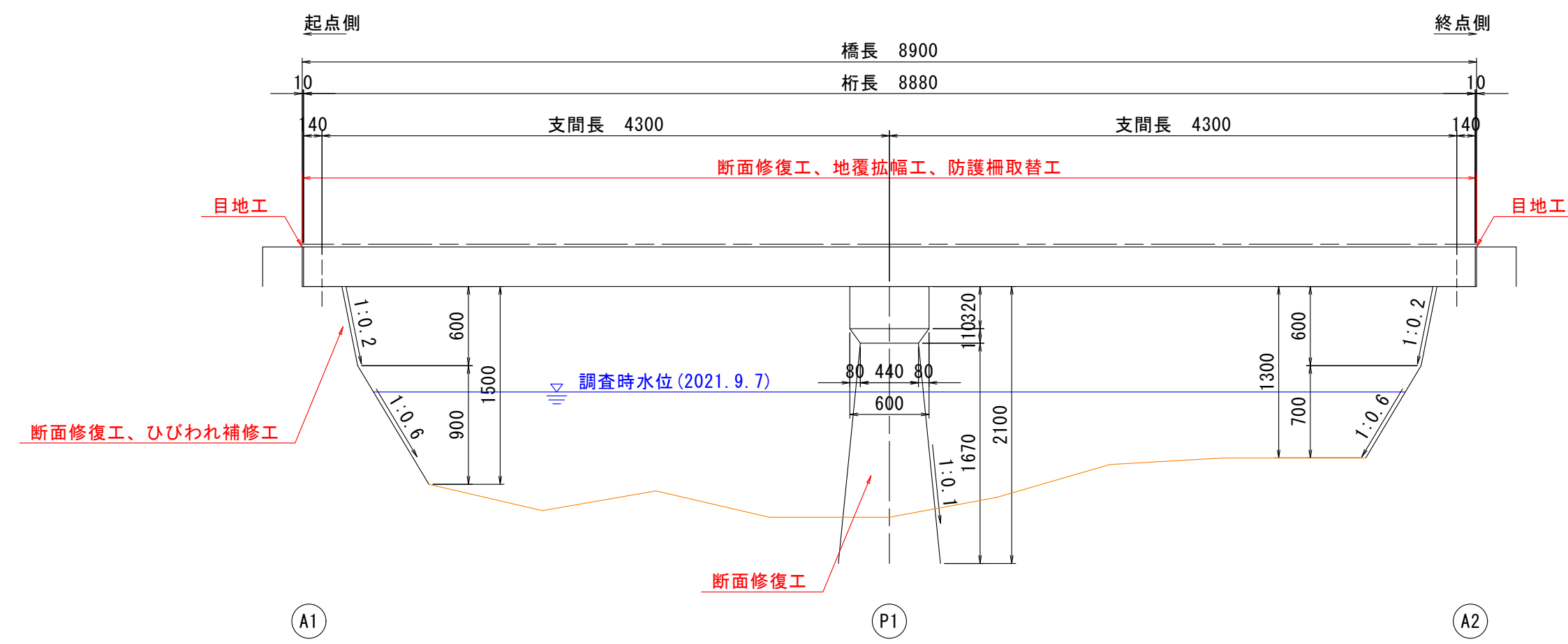
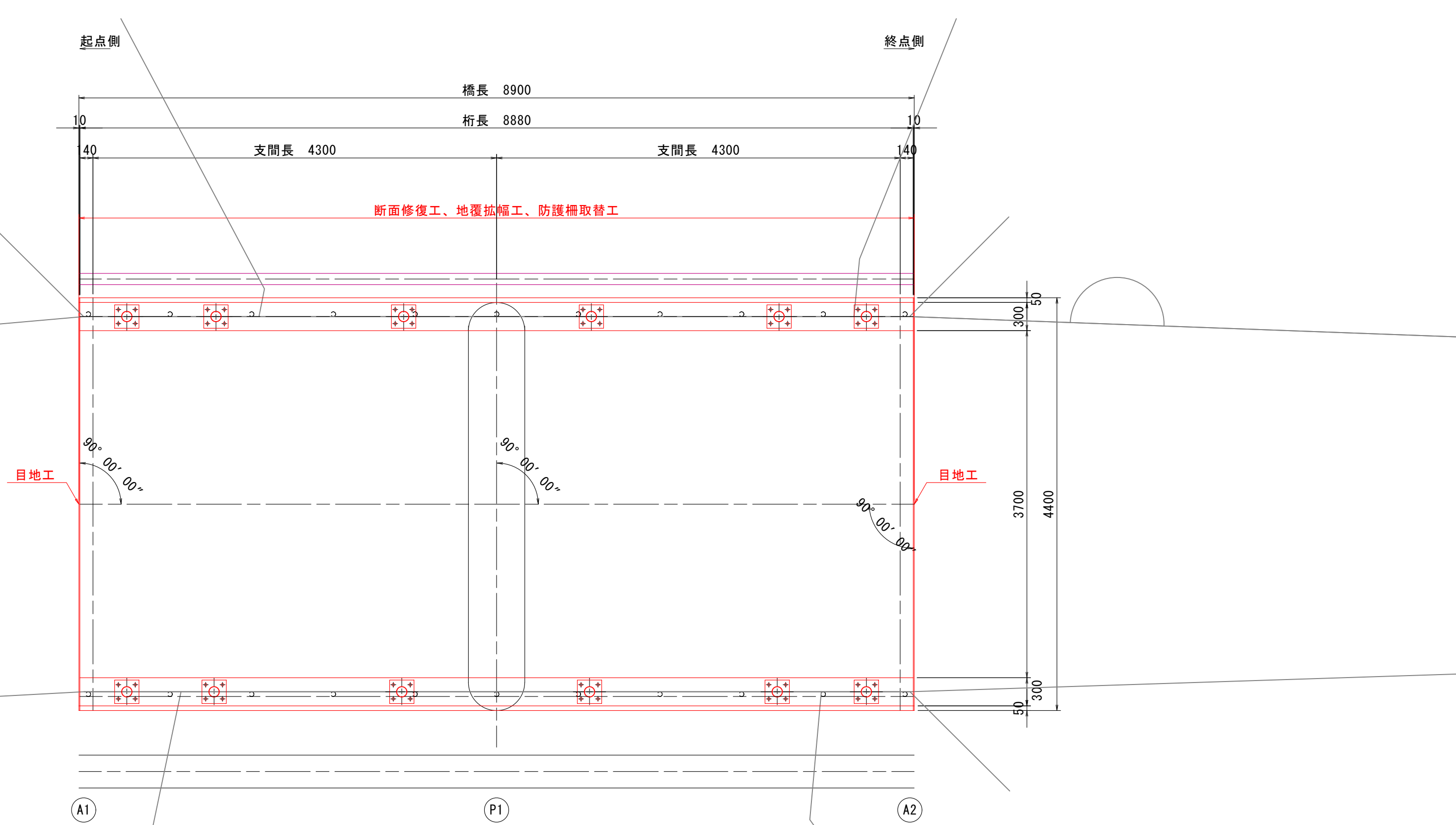


補修一般図 S=1:40

側面図

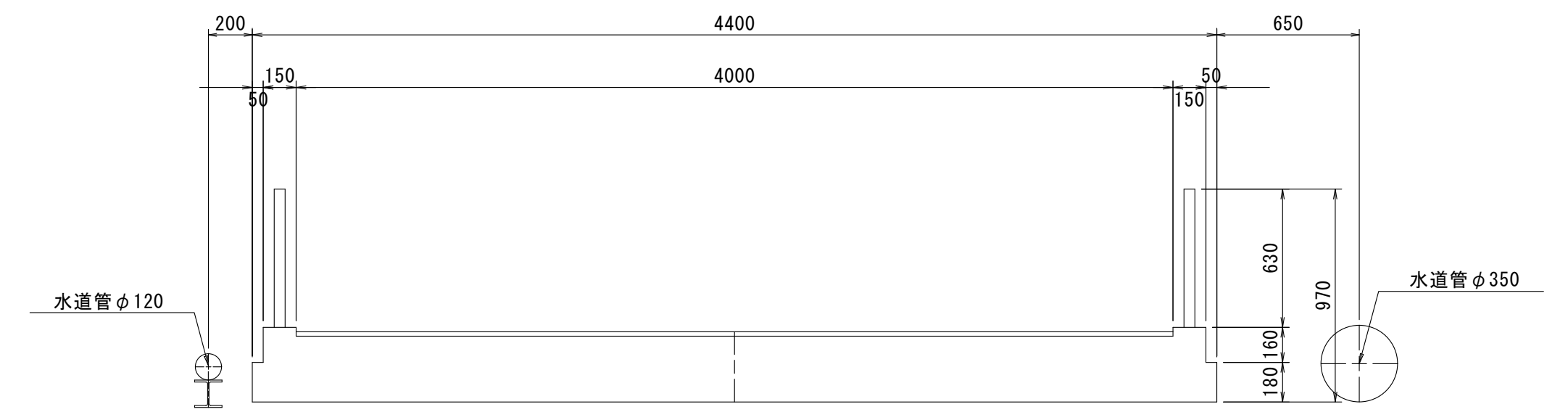


平面図

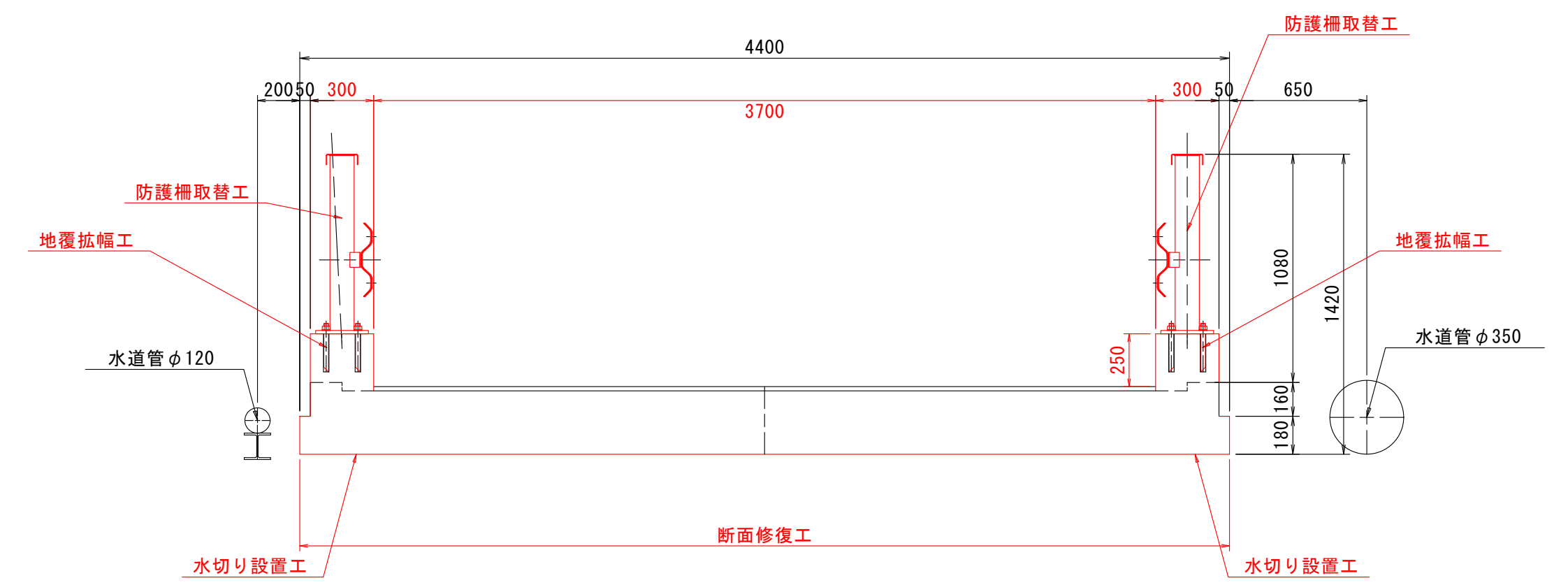


上部工断面図 S=1:25

現況



補修後



設計条件

道路条件	
路線	市道 吉永大幸線
道路規格	不明
設計速度	不明
設計荷重	不明
大型車交通量	-
計画交通量	-
交差物件	ため池(名称不明)
幾何条件	
橋名	吉永大幸線2号橋
橋長	L=8,900m
桁長	L=8,880m
支間長	L=4,300m+4,300m
総幅員	4,400m
有効幅員	4,000m(現況)
斜角	$\theta = 90^\circ 00' 00''$ (道路中心)
平面線形	R = ∞
縦断勾配	LEVEL
横断勾配	LEVEL
構造形式	
上部工	RC 中実床版
舗装	
下部工	逆T式橋台(A1, A2), 壁式橋脚(P1)
基礎工	不明(A1, P1, A2)
支承	不明(A1, P1, A2)

【補修項目】

工法	判定区分	部材	規格	備考
断面修復工	II	床版・下部工		
ひびわれ補修工	II	下部工		
目地工	I	橋面		
地覆拡幅工	I	地覆		
防護柵取替工	I	防護柵		
水切り設置工	II	床版		

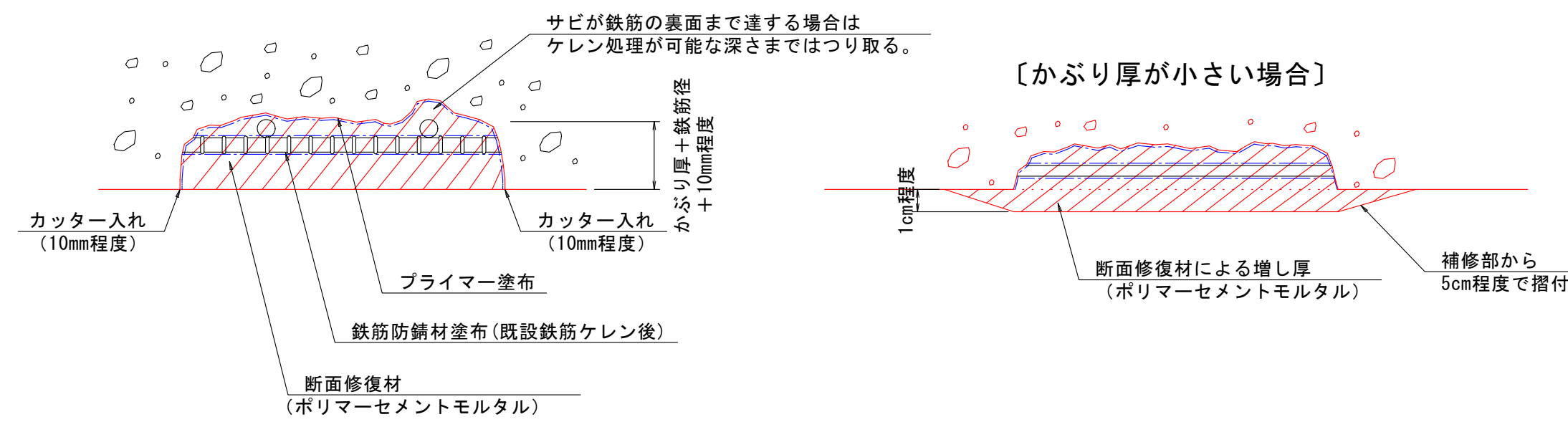
注記

1. 本図面は、既存資料を基に現地計測やスケールアップ等にて図化したものである。
2. 詳細な寸法等に不明箇所がある為、必要に応じて再計測等を実施すること。

図面番号	第 1 号	図面総数	第 7 葉
工事名称	吉永大幸線2号橋橋梁補修工事		
図名	補修一般図	縮尺(A1)	各図記載
製作年月	令和5年7月	所属年度	令和5年度
係員	課長	副課長	係長 係員 設計・製図 照査
	鳴門市 都市建設部 土木課		

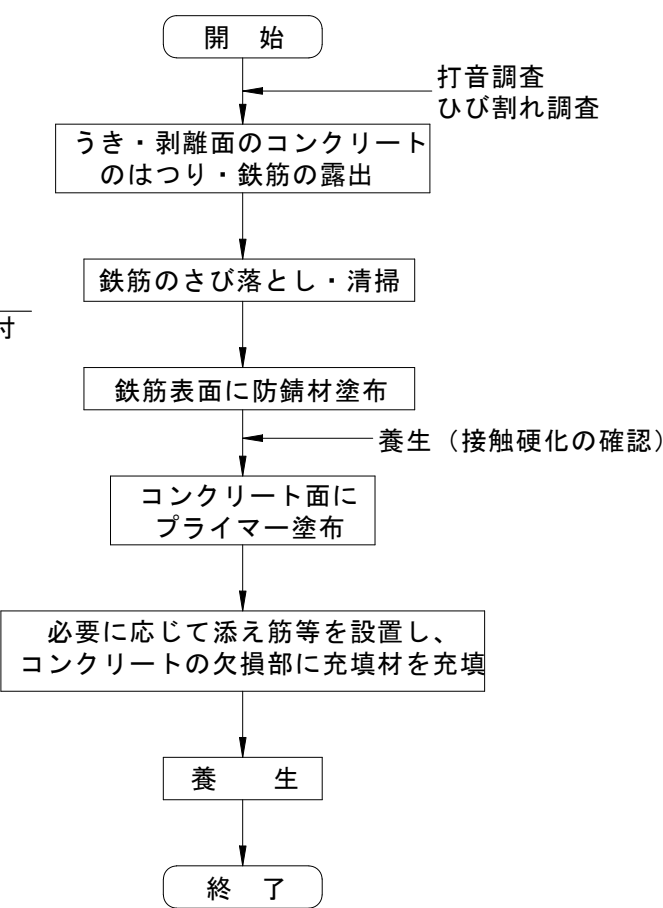
補修詳細図(その1) S=1:40

断面修復工詳細図

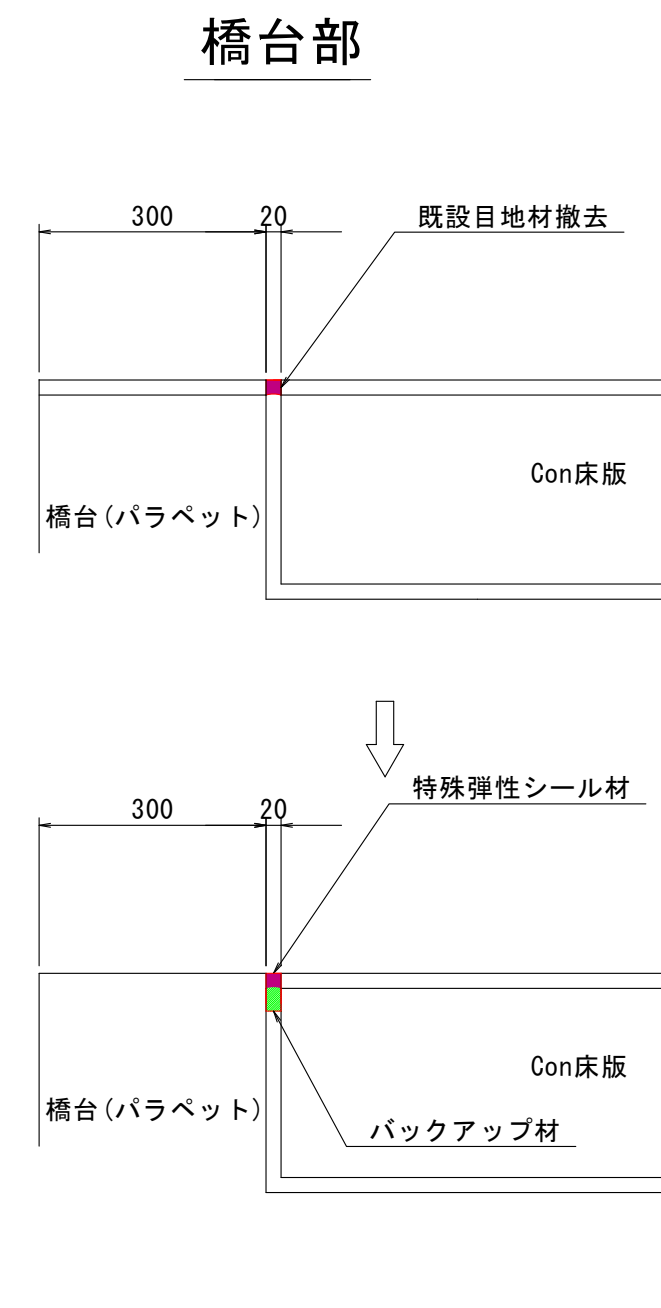


- ※ 使用する材料の仕様に基づいて施工すること。
- ※ 補修部縁端は、フェザーエッジが生じないようにカッターで切れ込みを入れること。
- ※ 鉄筋のかぶり厚が薄い場合は、ポリマーセメントモルタルで10mm以上は確保するように盛って張り付ける形で断面修復を行うこと。施工時の青線等の残骸は可能な限り除去して断面修復すること。
- ※ はつり深さは適宜調整するものとし、脆弱部は完全に除去して充填を行うこと。
- ※ 鉄筋がある場合は、既設鉄筋の背面、既設部材の粗骨材寸法程度まで除去する。(10~20mm程度)
- ※ 豆板部で粗骨材が露出している部分においては脆弱部ははつり取り、健全部を露出してポリマーセメントモルタル等を塗布や充填して復旧すること。
- ※ はつりを行い、鉄筋が確認された場合は錆を除去した後、鉄筋防錆材を塗布すること。

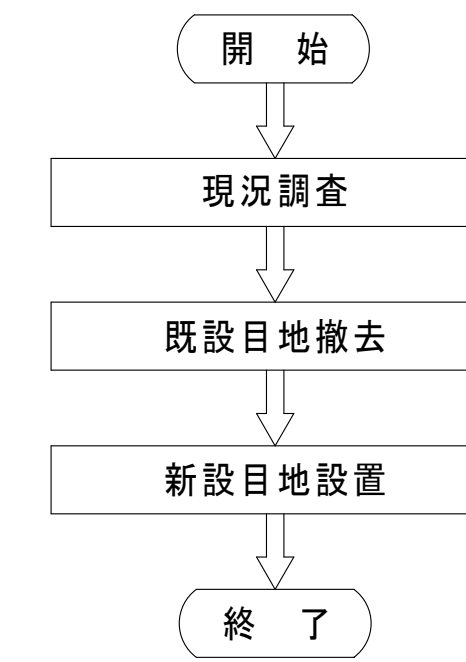
[断面修復工法の施工要領]



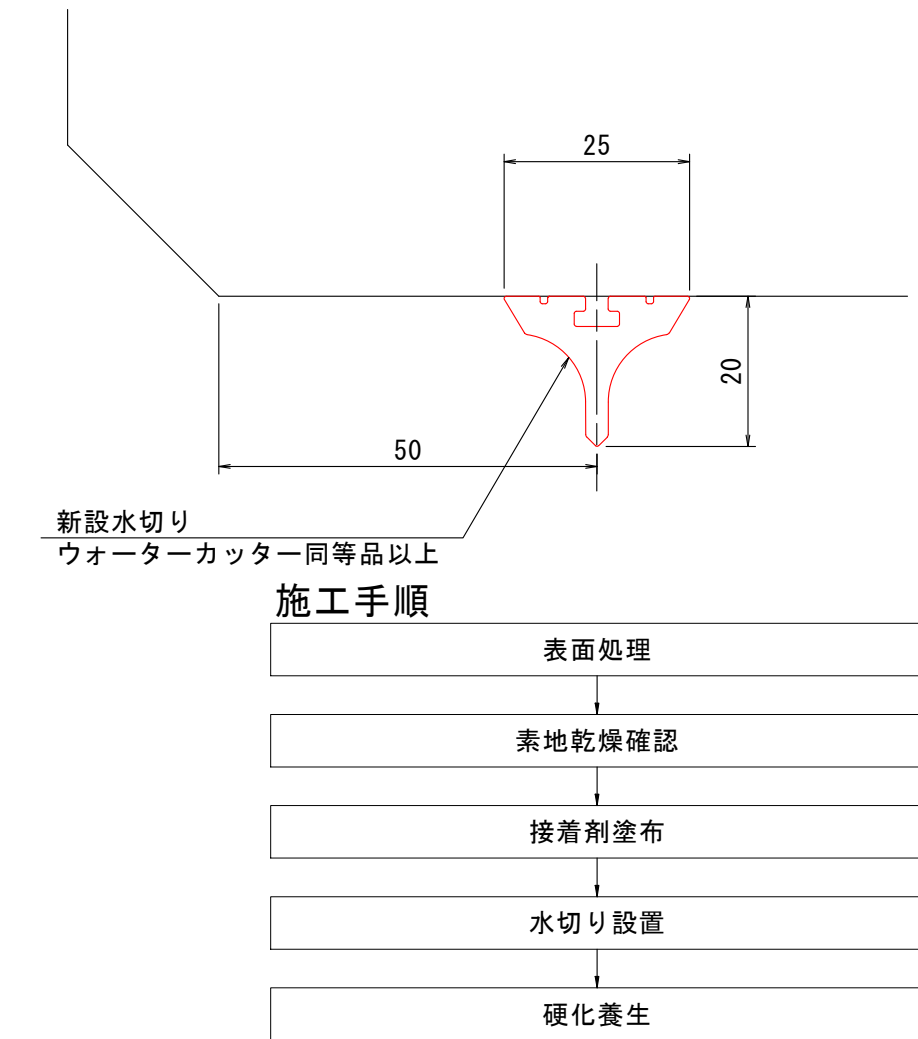
目地工詳細図 S=1:10



目地工施工フロー

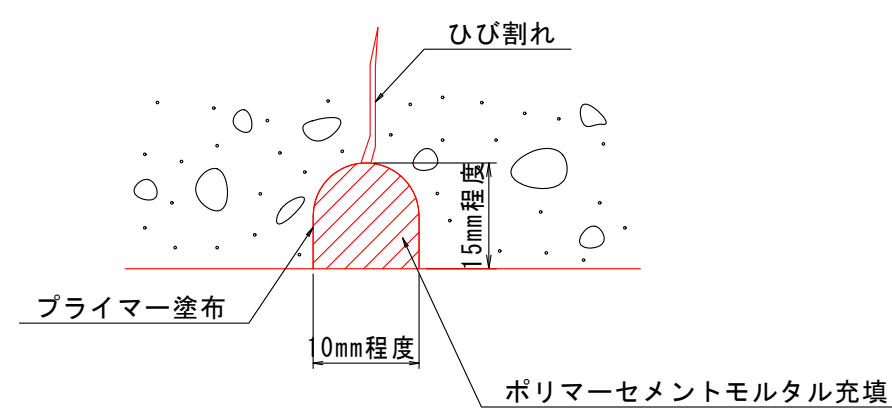


水切り詳細図 S=1:1

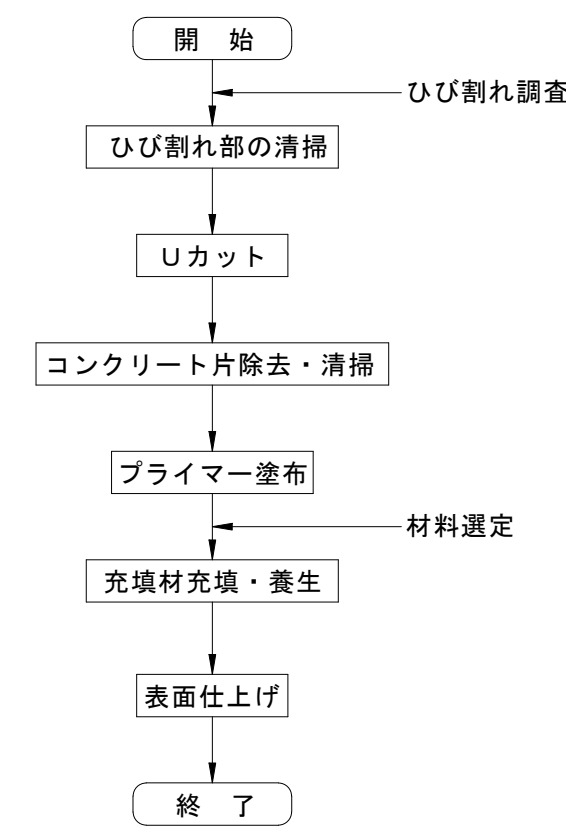


注1) 水切りと床版の接着性、施工性、水切り機能を確認するため、床版の端から50mm程度の余裕しるを確保すること。

ひびわれ充填工法詳細図 (Uカット工法)

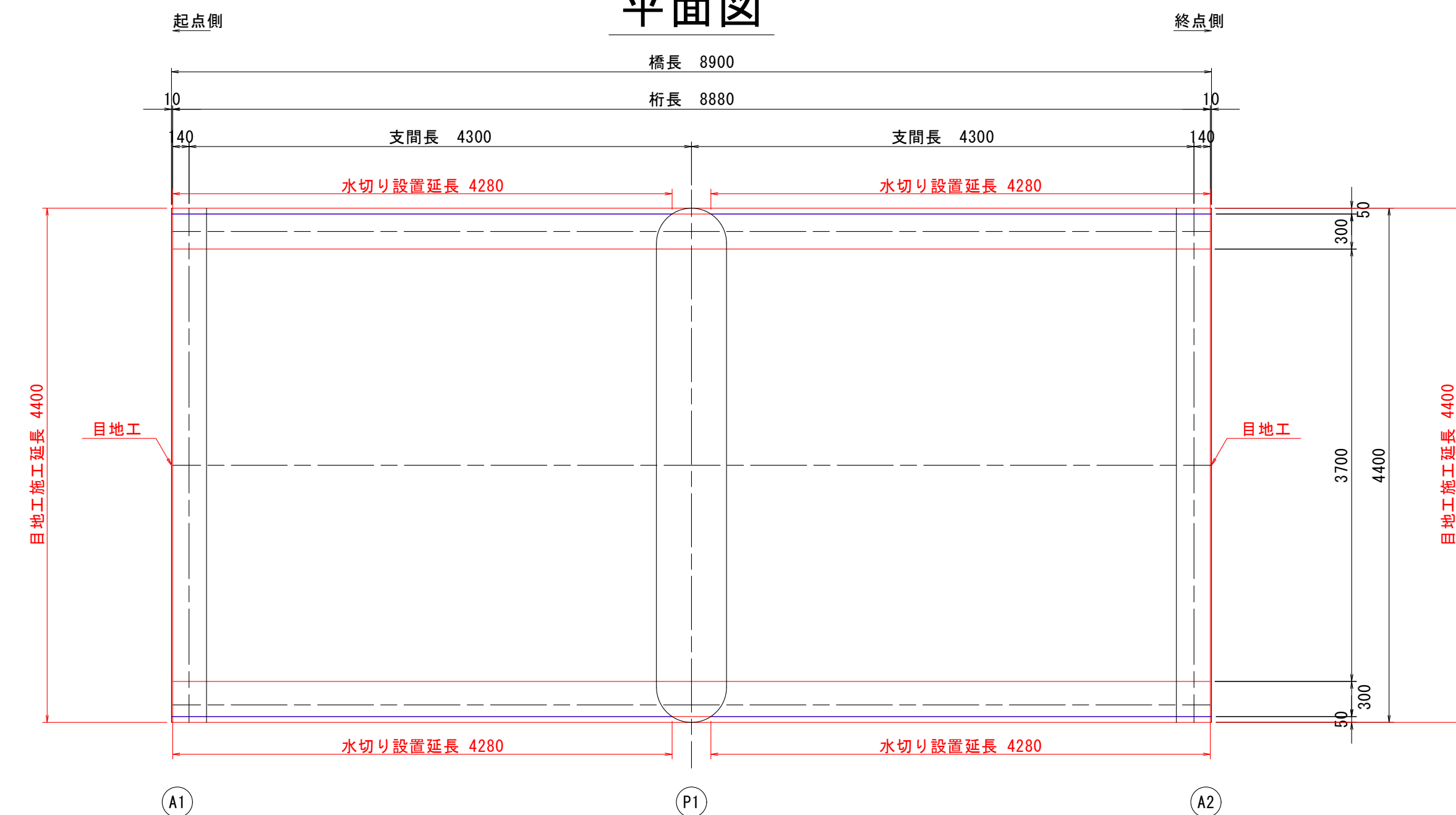


[Uカット工法の施工要領]



- 注) 施工時に現地実測の上、数量を確定すること。
- 注) 充填材は、ポリマーセメントモルタルとする。
- 注) 基本的にはひび割れ幅1.0mm以上及び遊離石灰等で注入が困難な箇所を対象とする。
- 注) 遊離石灰部は研搦して状態を見極めて、補修の必要性を判断すること。
- 注) 損傷状況により補修工法に変更が生じる場合は、監督員と協議の上、最終決定すること。

平面図



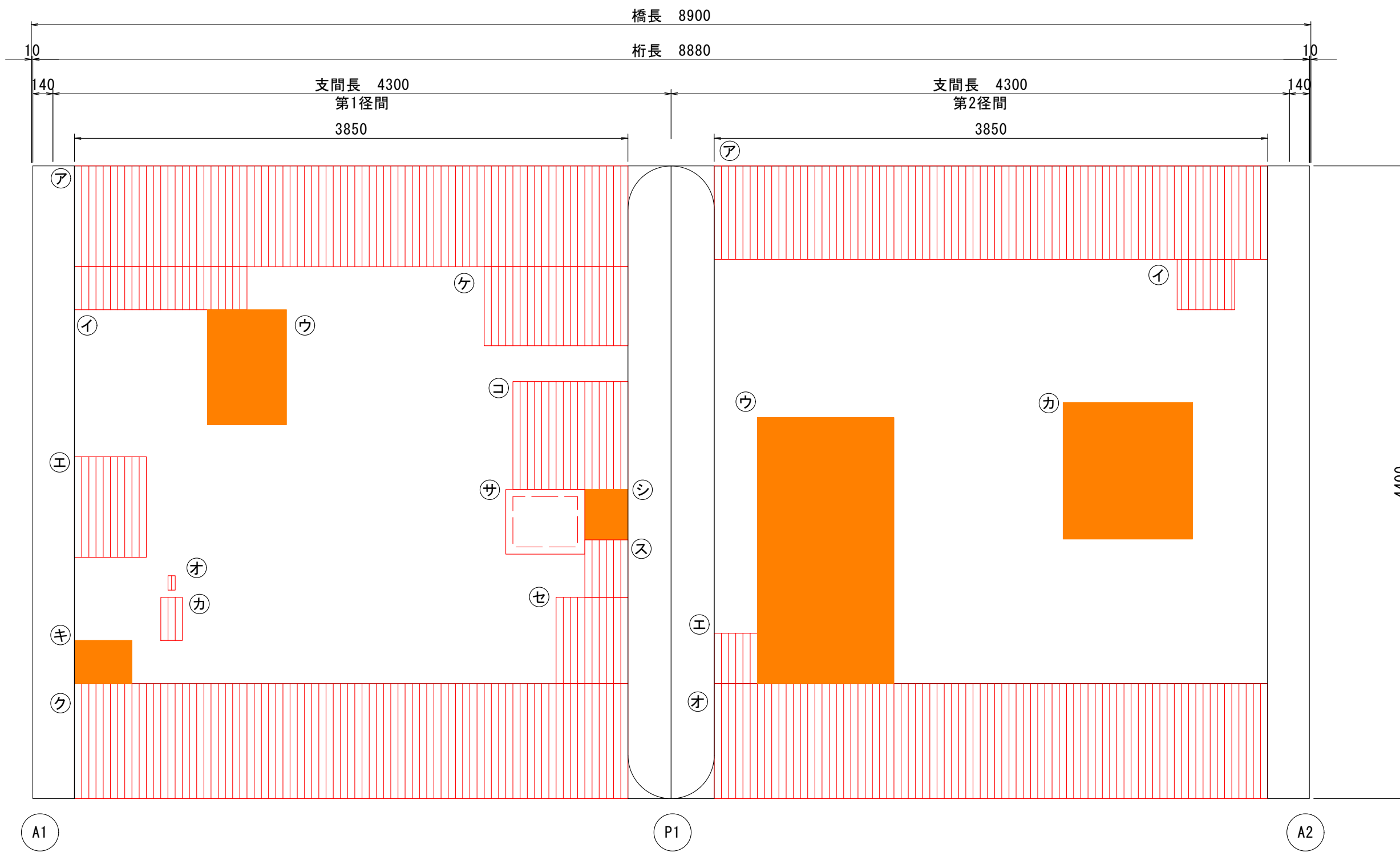
図面番号	第 2 号	図面総数	第 7 葉
工事名称	吉永大幸線2号橋橋梁補修工事		
図名	補修詳細図(その1)	縮尺(A1)	各図記載
製作年月	令和5年7月	所属年度	令和5年度
係員	課長	副課長	係長 係員 設計・製図 照査
鳴門市 都市建設部 土木課			

補修詳細図(その2) S=1:30

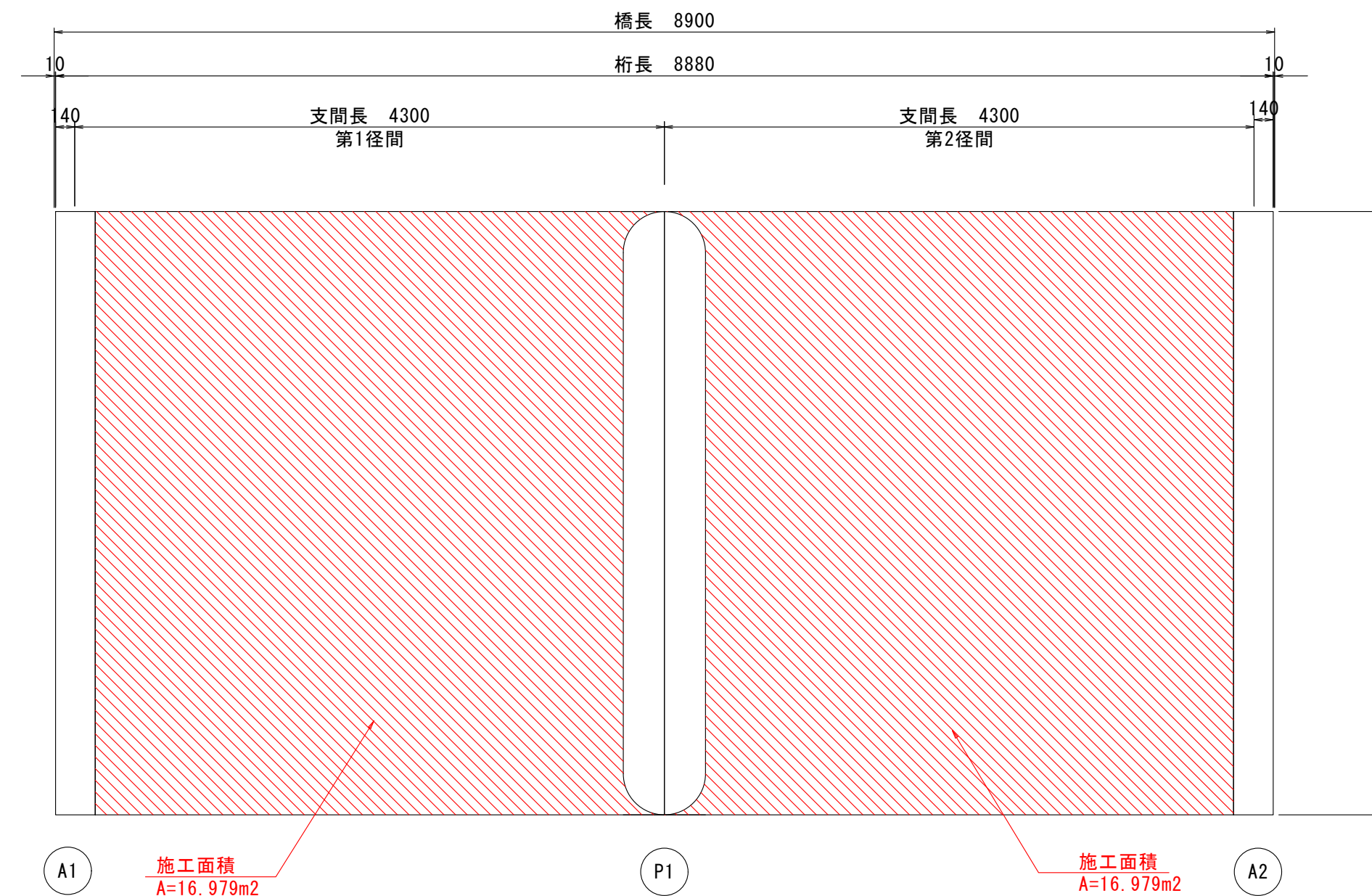
断面修復工

表面含浸工 S=1:40

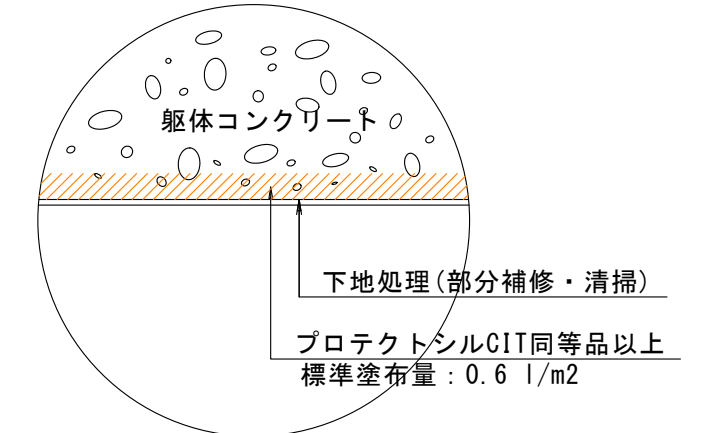
床版下面



床版下面



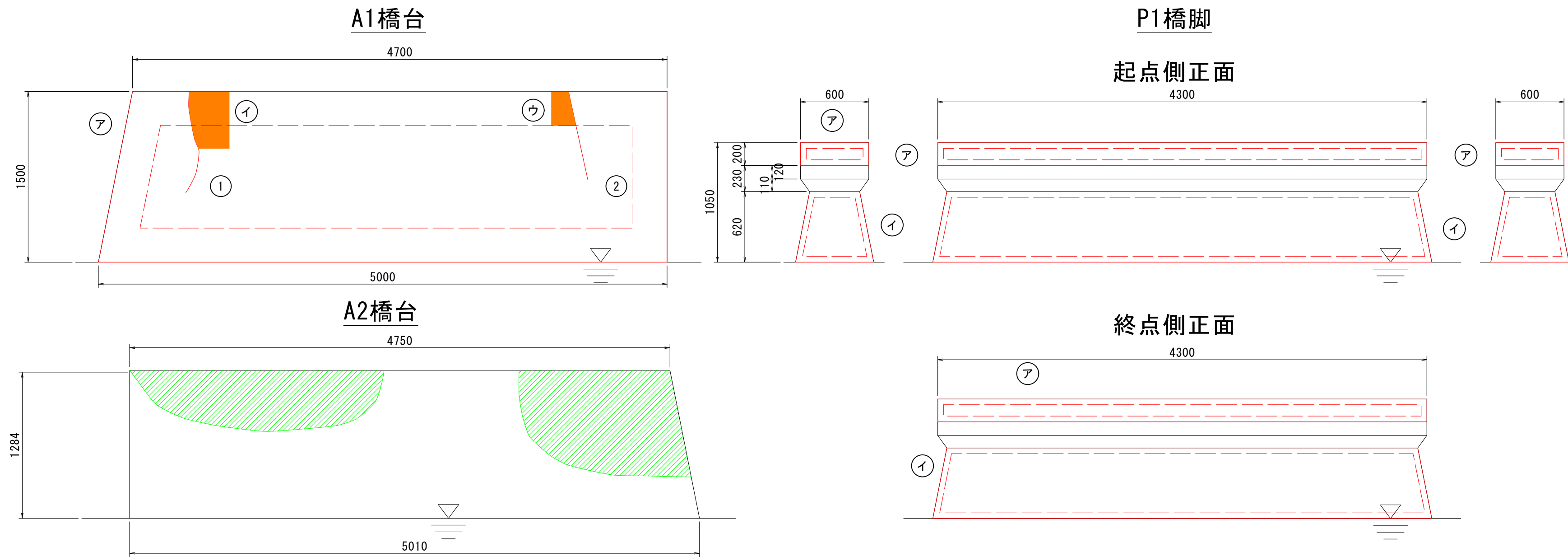
詳細図



施工手順

- はつり(鉄筋まではチップバー)
- はつり(鉄筋背面電動ピック)
- サンドブラストによる除錆(Sa2)
- 鉄筋防錆剤塗布
- プライマー塗布
- 断面修復材充填
(ポリマーセメントモルタル)
- プロテクトシルCIT同等品以上塗布(躯体コンクリート)

下部工



凡例

- ①~: ひびわれ充てん工法
- ㊦~: 断面修復工法

《ひび割れの線種》

---	ひび割れ幅0.2mm未満
---	ひび割れ幅0.2mm以上1.0mm未満
---	ひび割れ幅1.0mm以上および遊離石灰

《補修工法一覧表》

損傷	補修工法
ひび割れ幅0.2mm未満	-
ひび割れ幅0.2mm以上1.0mm未満	ひび割れ注入工
ひび割れ幅1.0mm以上	ひび割れ充填工
遊離石灰	ひび割れ充填工
剥離・鉄筋露出	断面修復工
うき・豆板	断面修復工

凡例

ひびわれ	うき	剥離	鉄筋露出	遊離石灰	豆板・空洞	漏水・滞水

注) 足場架設後に現地実測の上、数量を確定すること。
 注) 基本的に0.2mm以上のひび割れを補修対象とする。
 注) 遊離石灰を伴う箇所は、要調査の上で補修すること。
 遊離石灰により、注入が困難な場合はUカット工法(もしくはVカット工法)で取り除き、ポリマーセメントモルタル埋戻しによる充填工法に変更し補修すること。
 注) 記載無きひび割れはひび割れ幅0.2mmを示す。

断面修復工(左官工法)

部材	No.	種別	幅 W [mm]	延長 L [mm]	深さ t [mm]	面積 A [m2]	体積 V [m3]	防錆処理	備考
主桁0101	ア	鉄筋露出	700	3850	70	2.6950	0.1887	有	
主桁0101	イ	鉄筋露出	300	1200	70	0.3600	0.0252	有	
主桁0101	ウ	うき	800	550	70	0.4400	0.0308	有	
主桁0101	エ	鉄筋露出	700	500	70	0.3500	0.0245	有	
主桁0101	オ	鉄筋露出	100	50	70	0.0050	0.0004	有	
主桁0101	カ	鉄筋露出	300	150	70	0.0450	0.0032	有	
主桁0101	キ	うき	300	400	70	0.1200	0.0084	有	
主桁0101	ク	鉄筋露出	800	3850	70	3.0800	0.2156	有	
主桁0101	ケ	鉄筋露出	550	1000	70	0.5500	0.0385	有	
主桁0101	コ	鉄筋露出	750	800	70	0.6000	0.0420	有	
主桁0101	サ	剥離	450	550	50	0.2475	0.0124	有	
主桁0101	シ	うき	350	300	70	0.1050	0.0074	有	
主桁0101	ス	鉄筋露出	400	300	70	0.1200	0.0084	有	
主桁0101	セ	鉄筋露出	600	500	70	0.3000	0.0210	有	
合計							0.6265		
								防錆処理 有	0.6265
								防錆処理 無	0.0000

(第1径間)

断面修復工(左官工法)

部材	No.	種別	幅 W [mm]	延長 L [mm]	深さ t [mm]	面積 A [m2]	体積 V [m3]	防錆処理	備考
主桁0101	ア	鉄筋露出	650	3850	70	2.5025	0.1752	有	
主桁0101	イ	鉄筋露出	350	400	70	0.1400	0.0098	有	
主桁0101	ウ	うき	1850	950	70	1.7575	0.1230	有	
主桁0101	エ	鉄筋露出	350	300	70	0.1050	0.0074	有	
主桁0101	オ	鉄筋露出	800	3850	70	3.0800	0.2156	有	
主桁0101	カ	うき	950	900	70	0.8550	0.0599	有	
合計							0.5909		
								防錆処理 有	0.5909
								防錆処理 無	0.0000

(第2径間)

ひび割れ補修工(充てん工)

部材	No.	種別	幅 W [mm]	延長 L [mm]	備考
橋台[壁壁]0101	1	壁壁ひびわれ	4.00	930	
橋台[壁壁]0101	2	壁壁ひびわれ	6.00	800	
合計				1.730	

(A1橋台)

断面修復工(左官工法)

部材	No.	種別	幅 W [mm]	延長 L [mm]	深さ t [mm]	面積 A [m2]	体積 V [m3]	防錆処理	備考
橋台[壁壁]0101	ア	すりへり	4850	1500	50	7.2750	0.3638	有	
橋台[壁壁]0101	イ	うき	CADより算出	70	0.1659	0.0116	有		
橋台[壁壁]0101	ウ	うき	CADより算出	70	0.0548	0.0038	有		
合計							0.3792		
								防錆処理 有	0.3792
								防錆処理 無	0.0000

(A1橋台)

断面修復工(左官工法)

部材	No.	種別	幅 W [mm]	延長 L [mm]	深さ t [mm]	面積 A [m2]	体積 V [m3]	防錆処理	備考
橋脚[梁部]0102	ア	剥離	CADより算出	50	1.9600	0.0980	有		
橋脚[柱部・壁部]0102	イ	すりへり	CADより算出	50	5.9868	0.2993	有		
合計							0.3973		
								防錆処理 有	0.3973
								防錆処理 無	0.0000

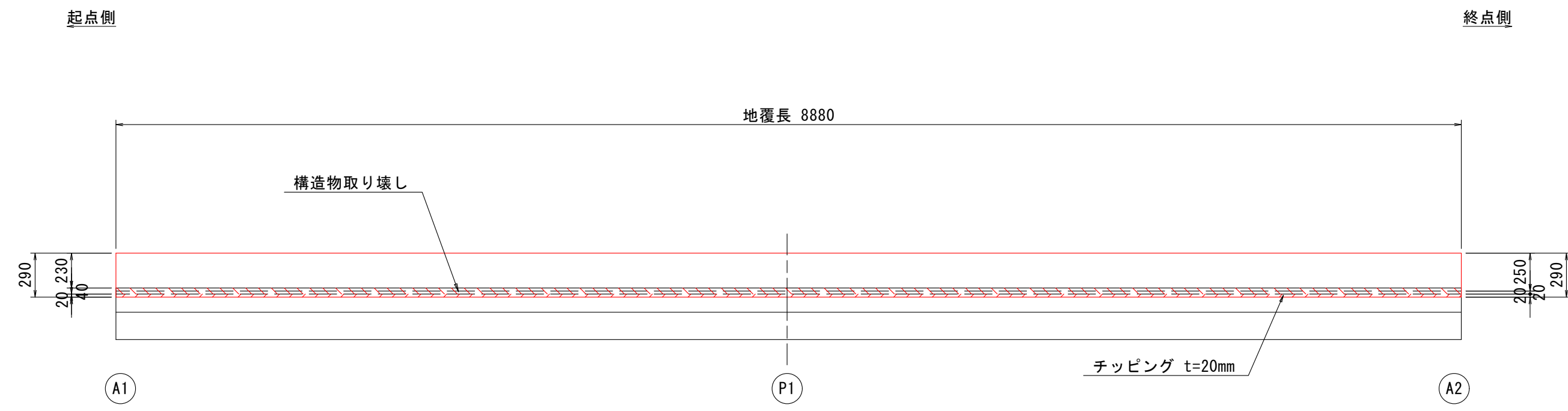
(P1橋脚)

図面番号	第 3 号	図面総数	第 7 葉
工事名称	吉永大幸線2号橋橋梁補修工事		
図名	補修詳細図(その2)	縮尺(A1)	各図記載
製作年月	令和5年7月	所属年度	令和5年度
係員	課長	副課長	係長 係員 設計・製図 照査
鳴門市 都市建設部 土木課			

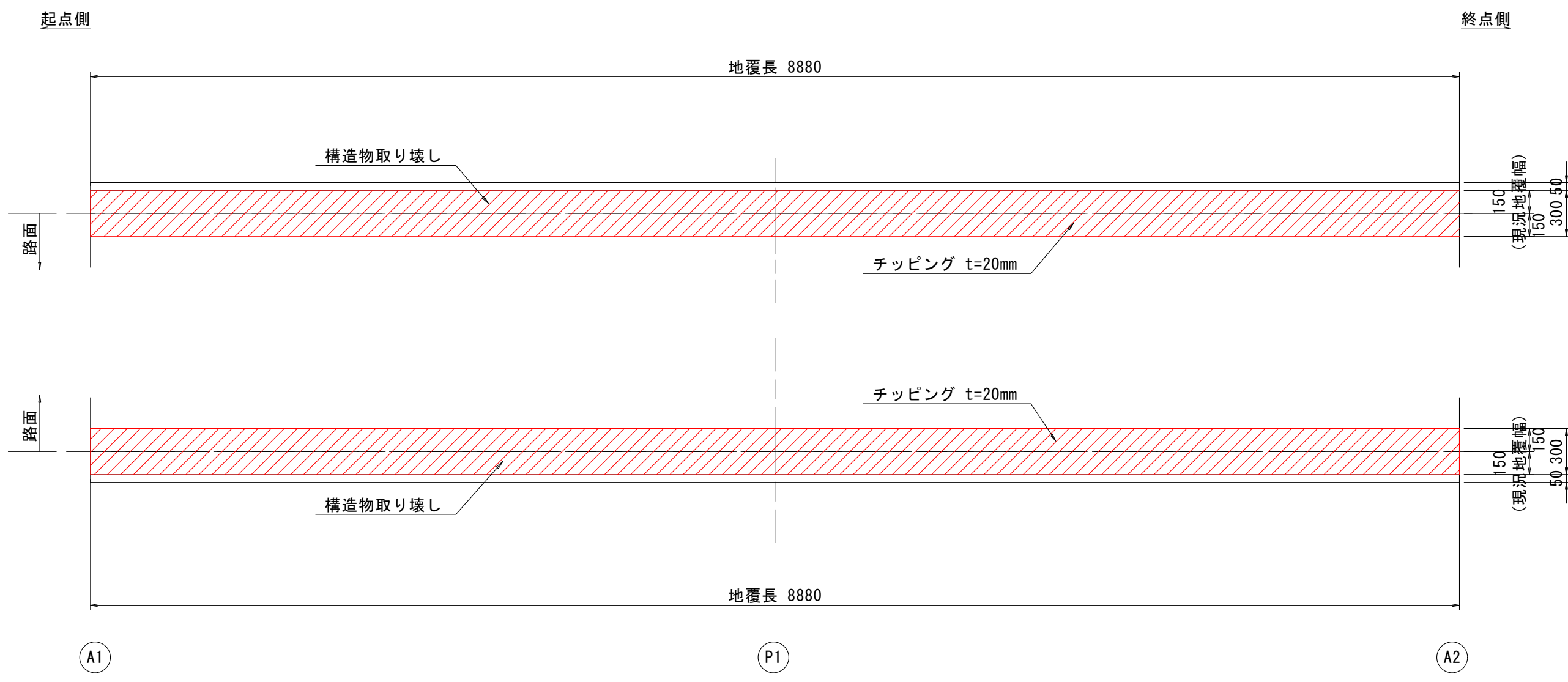
地覆拡幅詳細図 S=1:30

構造図

側面図

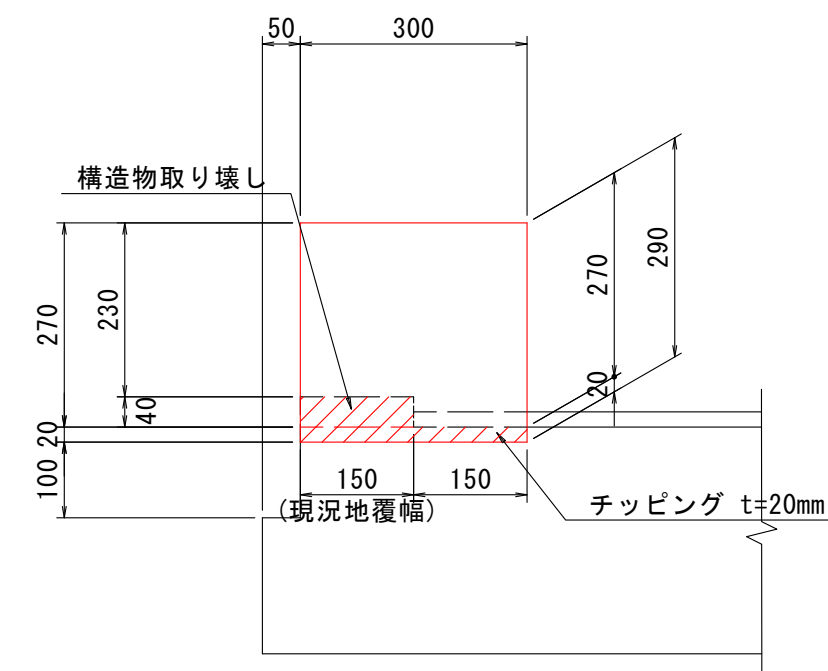


平面図

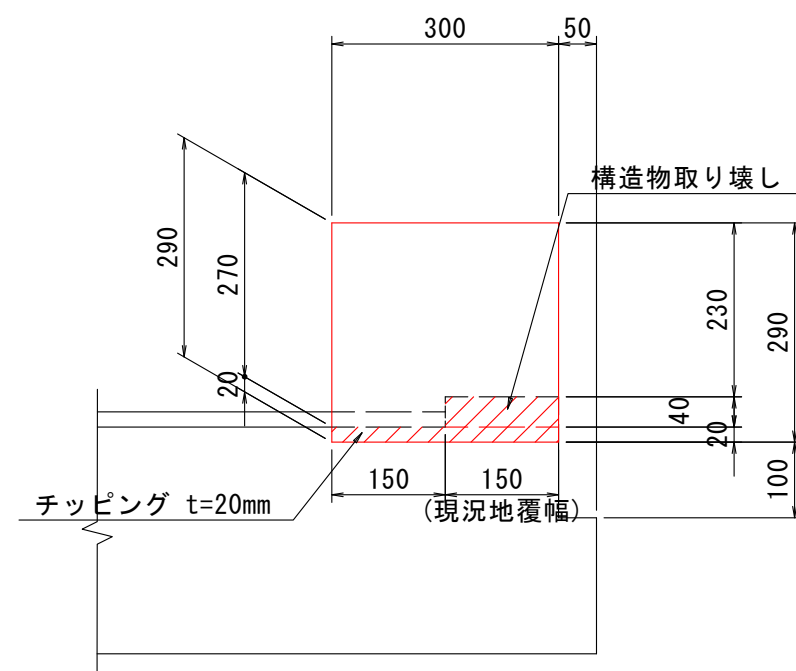


断面図 S=1:10

左側地覆

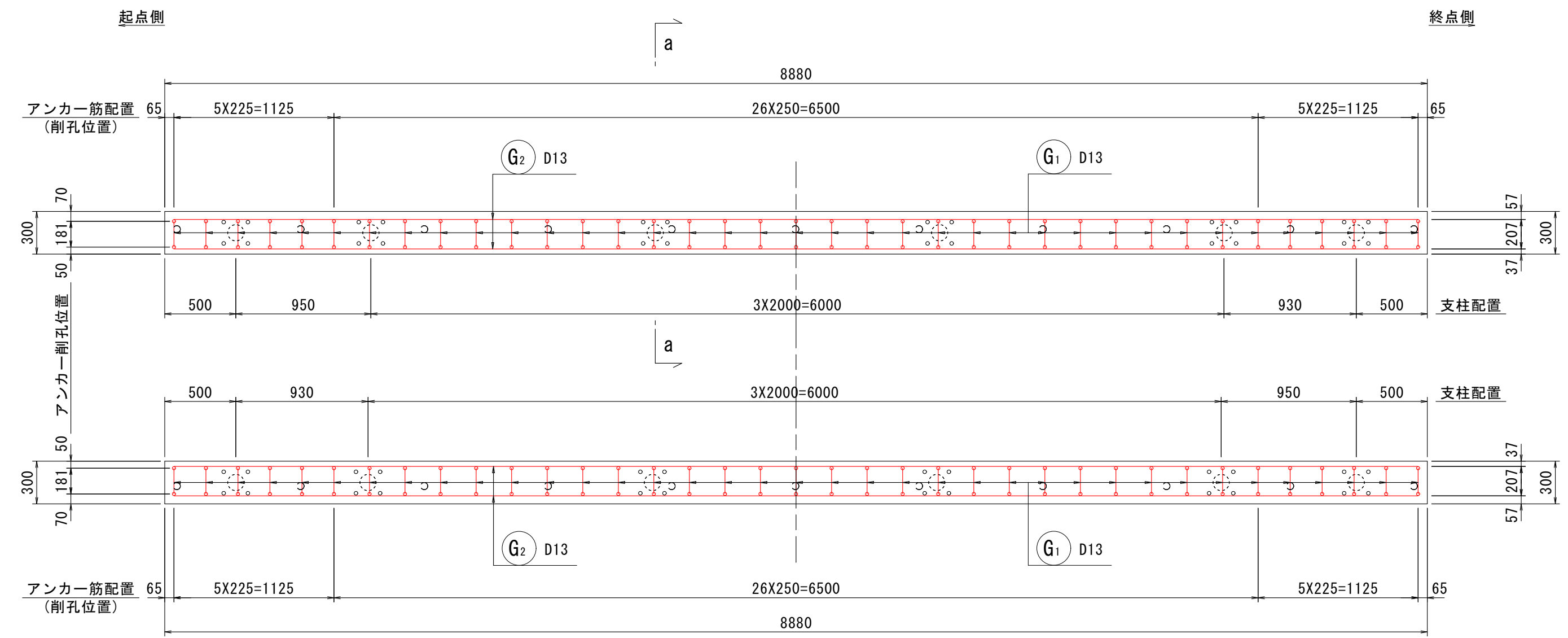


右側地覆

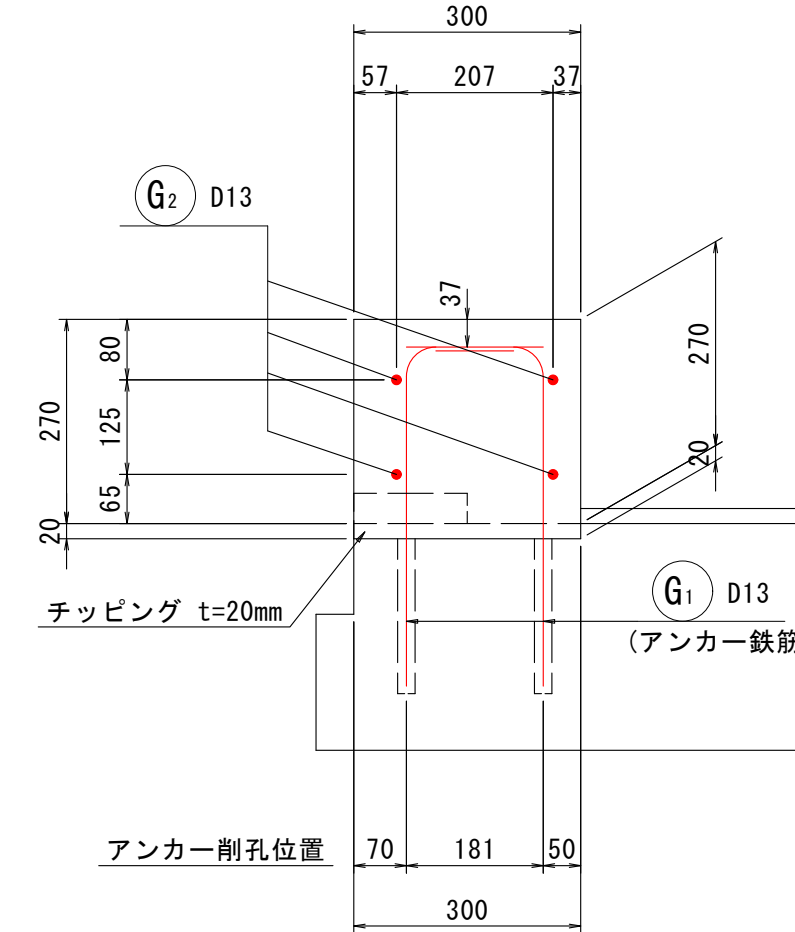


配筋図

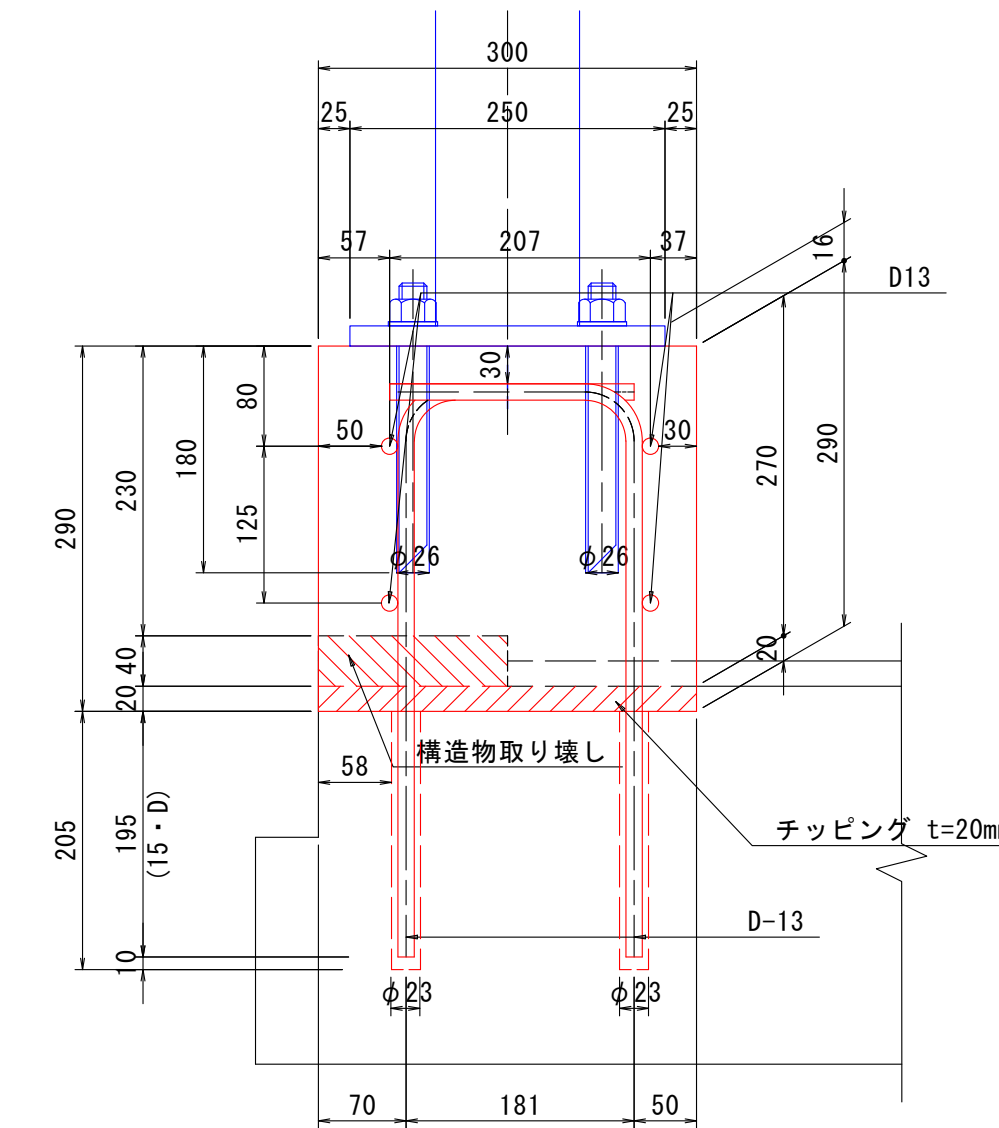
平面図



断面図 S=1:10 (a-a)

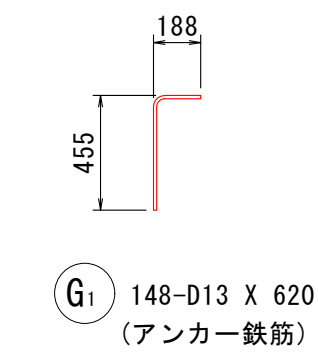


配筋要領図 S=1:6

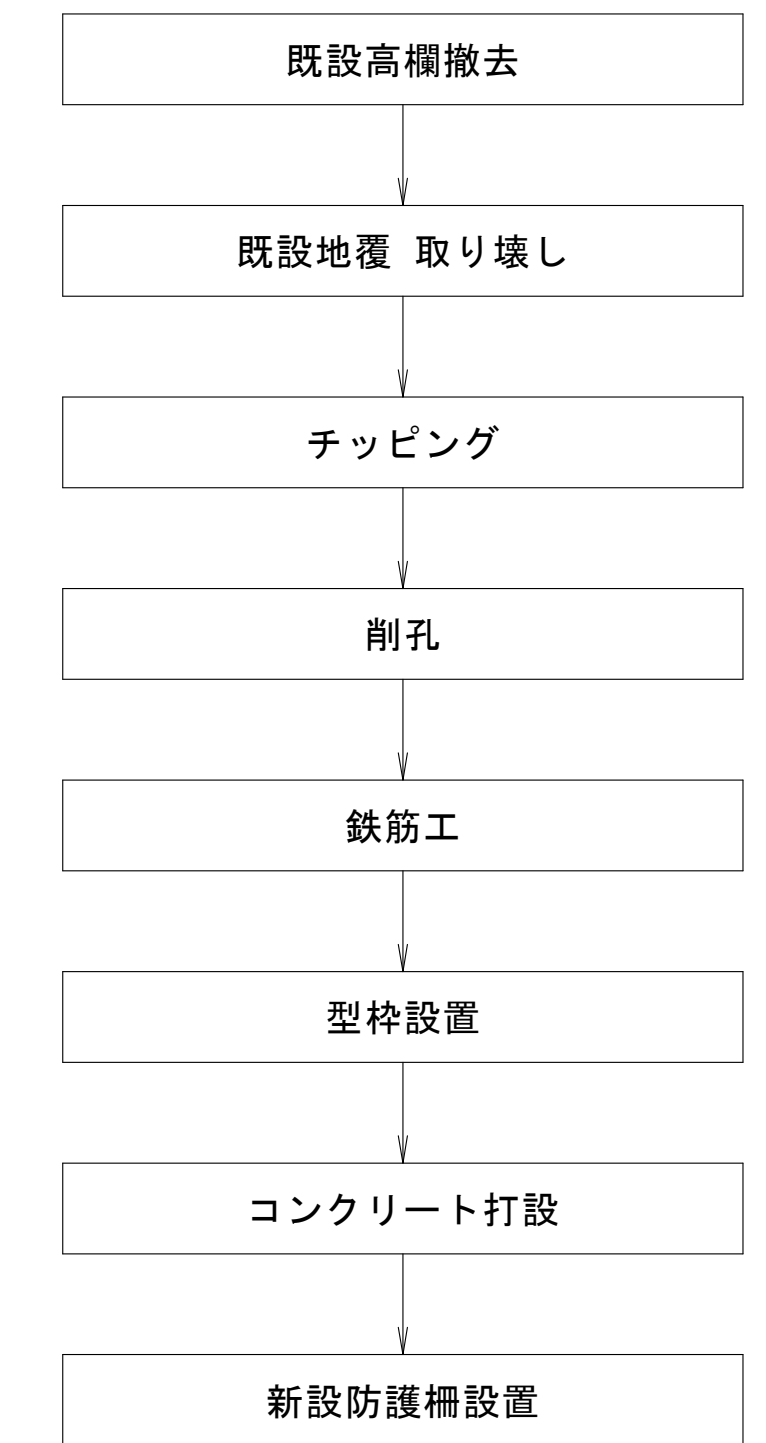


鉄筋質量表 (SD345)

種別	径	長さ	本数	単位質量	一本当り質量	質量	摘要
G ₁	D13	660	148	0.995	0.66	98	┌
G ₂	D13	8750	8	0.995	8.71	70	—
						168	
合計 D13						168 kg	
総質量						168 kg	



全体施工フロー

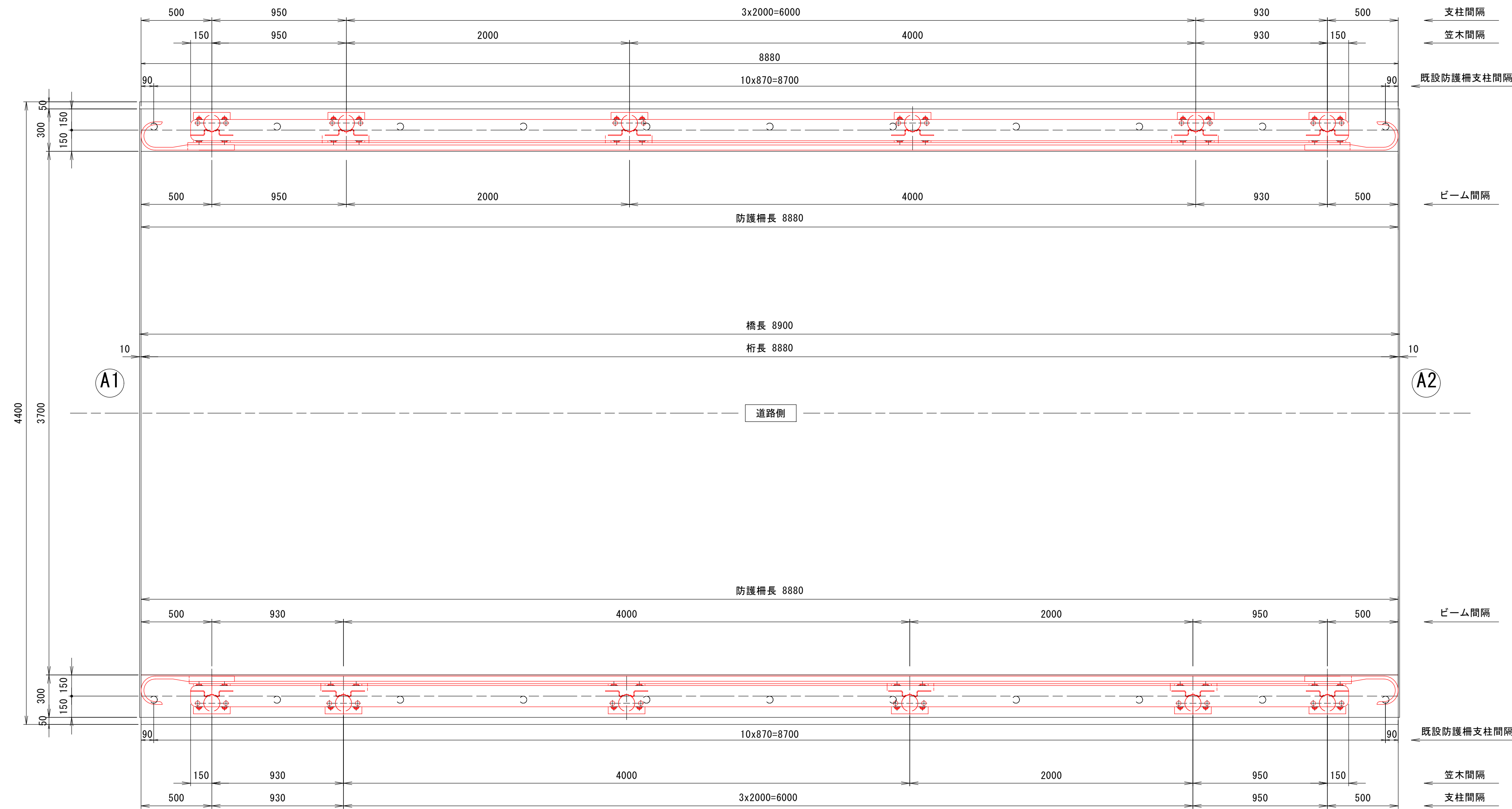


図面番号	第 4 号	図面総数	第 7 葉
工事名称	吉永大幸線2号橋橋梁補修工事		
図名	地覆拡幅詳細図 縮尺(A1) 各図記載		
製作年月	令和5年7月	所属年度	令和5年度
係員	課長	副課長	係長 係員 設計・製図 照査
	鳴門市 都市建設部 土木課		

防護柵取替構造図(その1) S=1:20

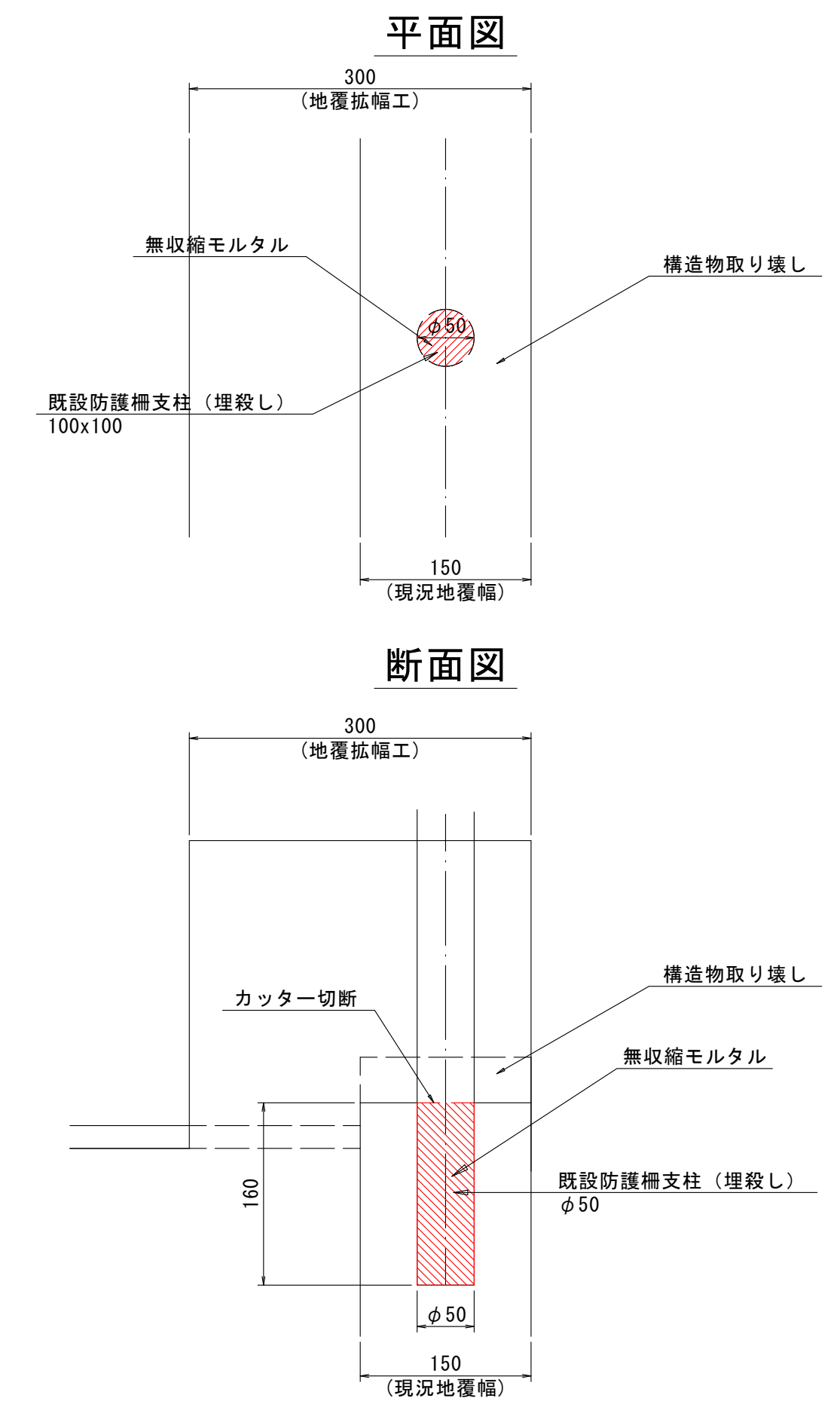
吉永大幸線2号橋

平面図



既設防護柵撤去詳細図 S=1:5

N=22箇所

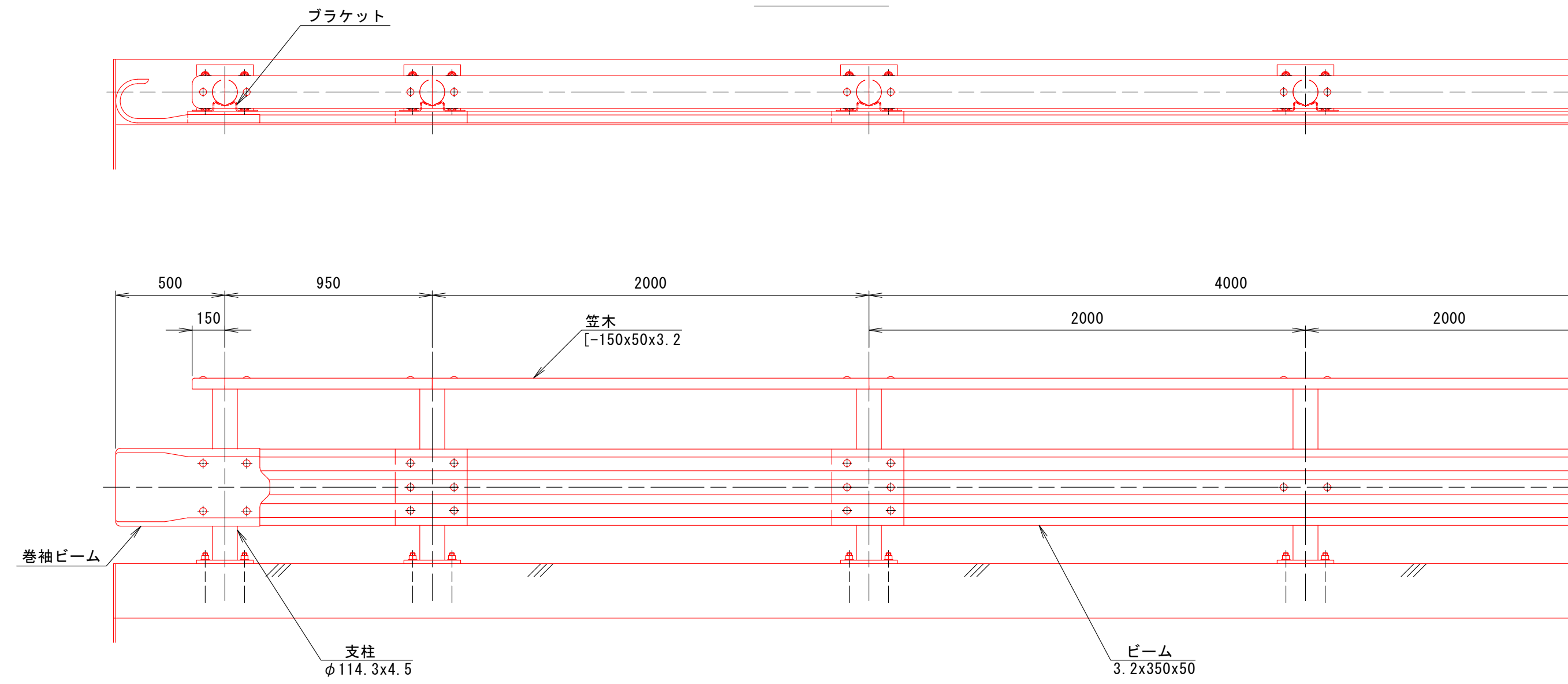


図面番号	第 5 号	図面総数	第 7 葉
工事名称	吉永大幸線2号橋橋梁補修工事		
図名	防護柵取替詳細図(その1) 縮尺(A1) 各図記載		
製作年月	令和5年7月	所属年度	令和5年度
係員	課長	副課長	係長
	係員	設計・製図	照査
鳴門市 都市建設部 土木課			

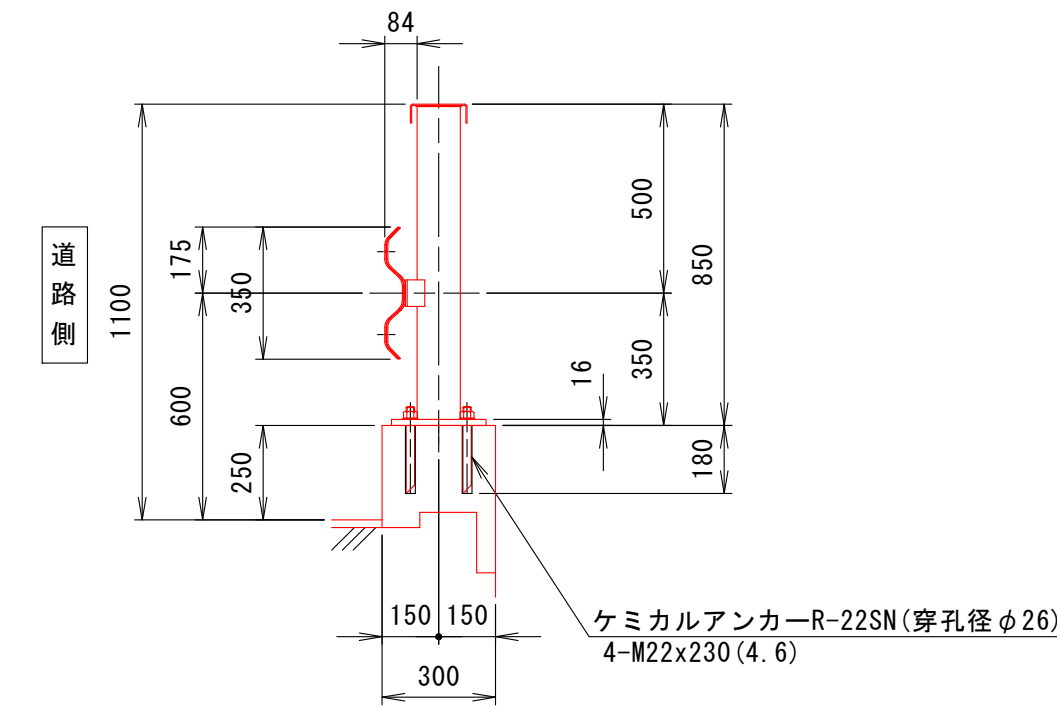
防護柵取替構造図(その2) S=1:20

吉永大幸線2号橋

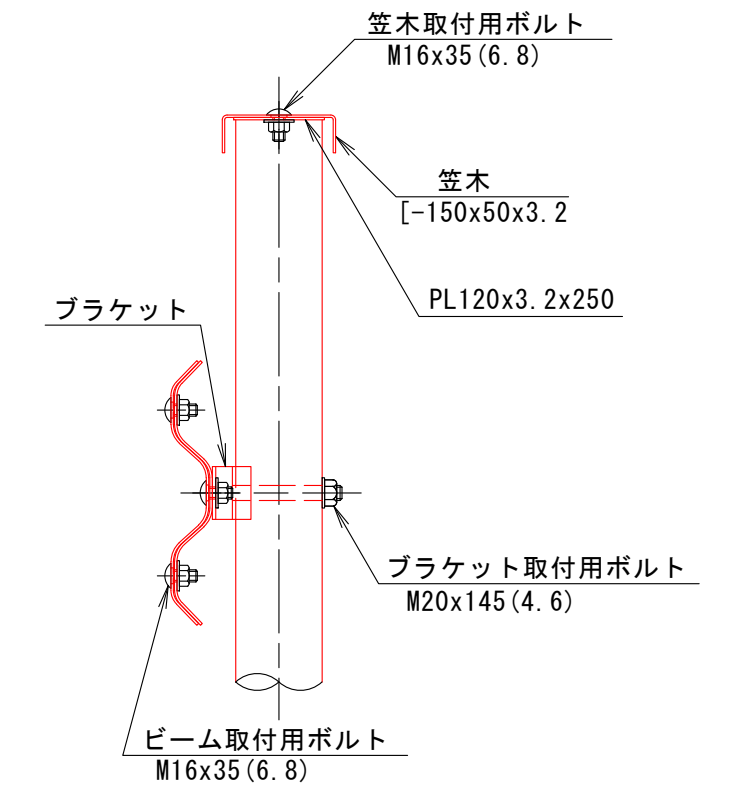
組立図



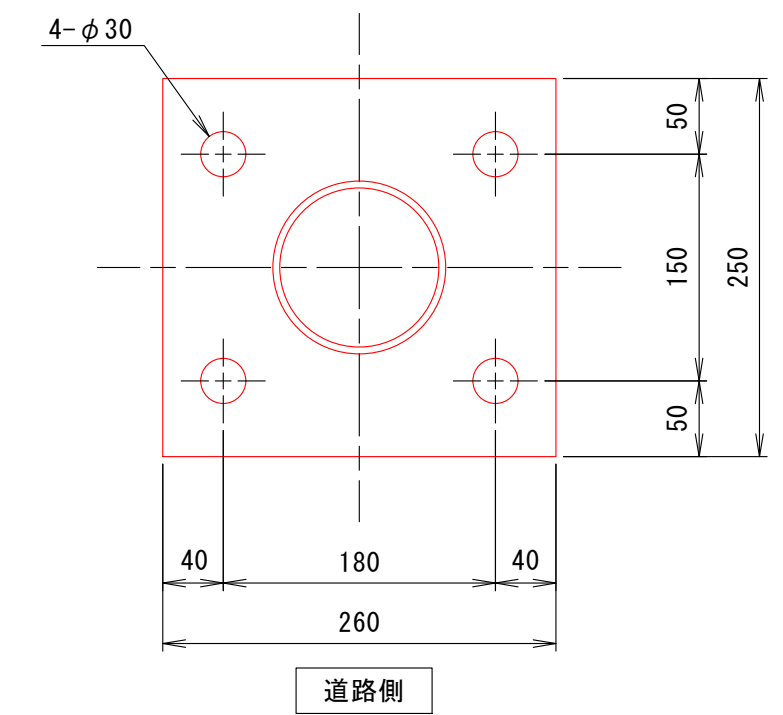
断面図



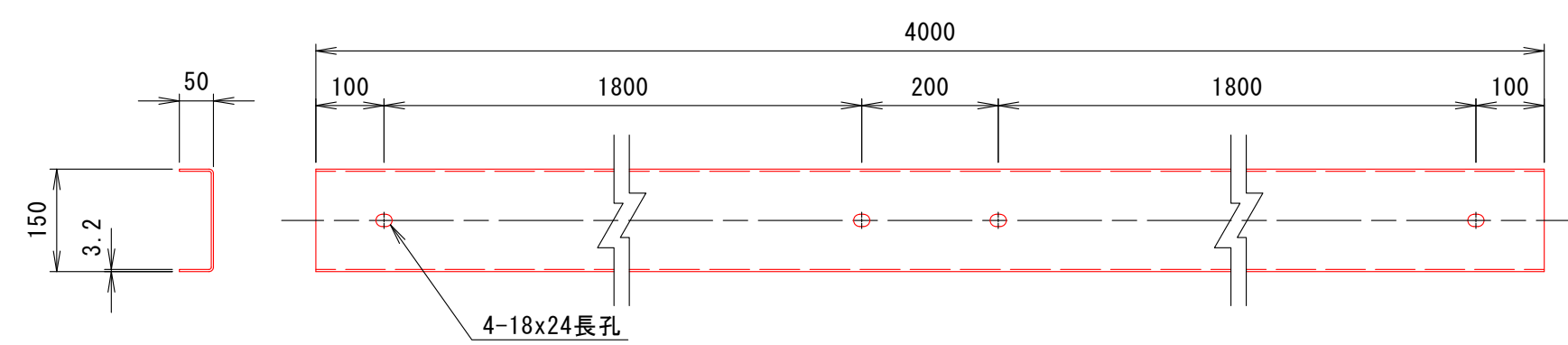
取付詳細図 S=1:10



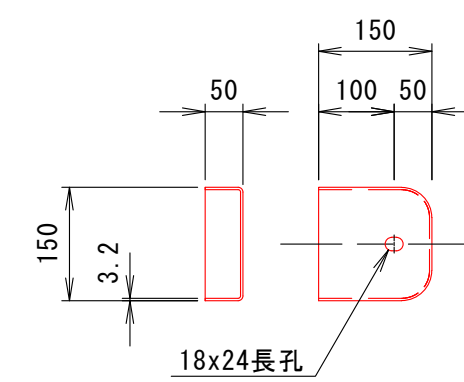
ベースプレート詳細図 S=1:5



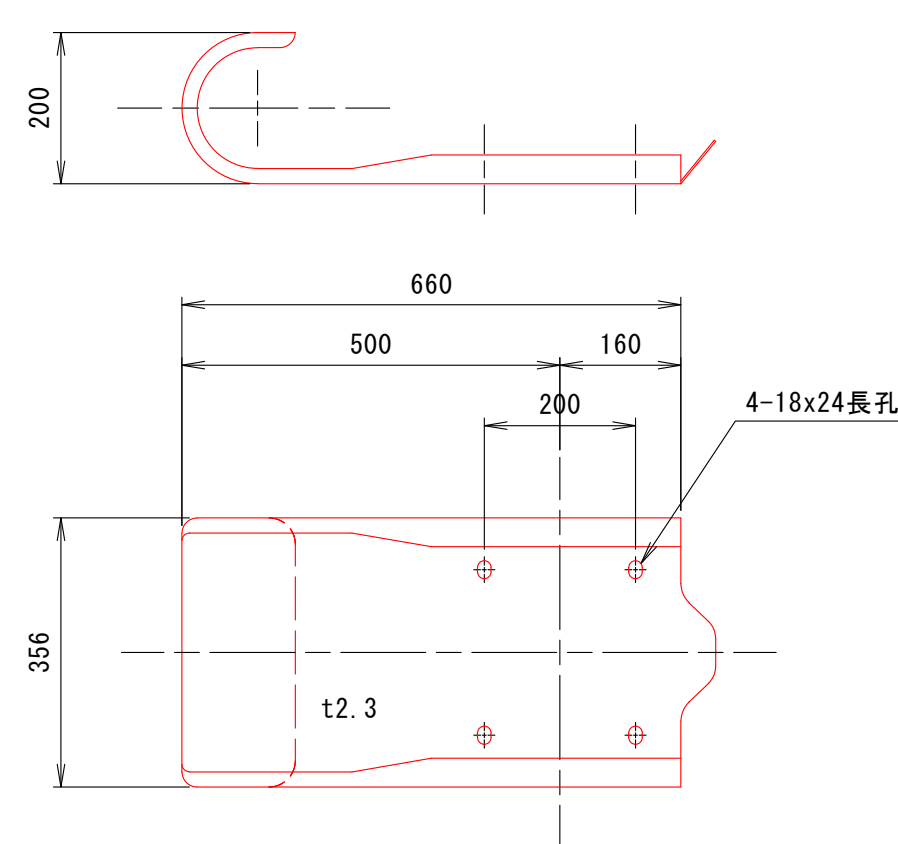
笠木 S=1:10



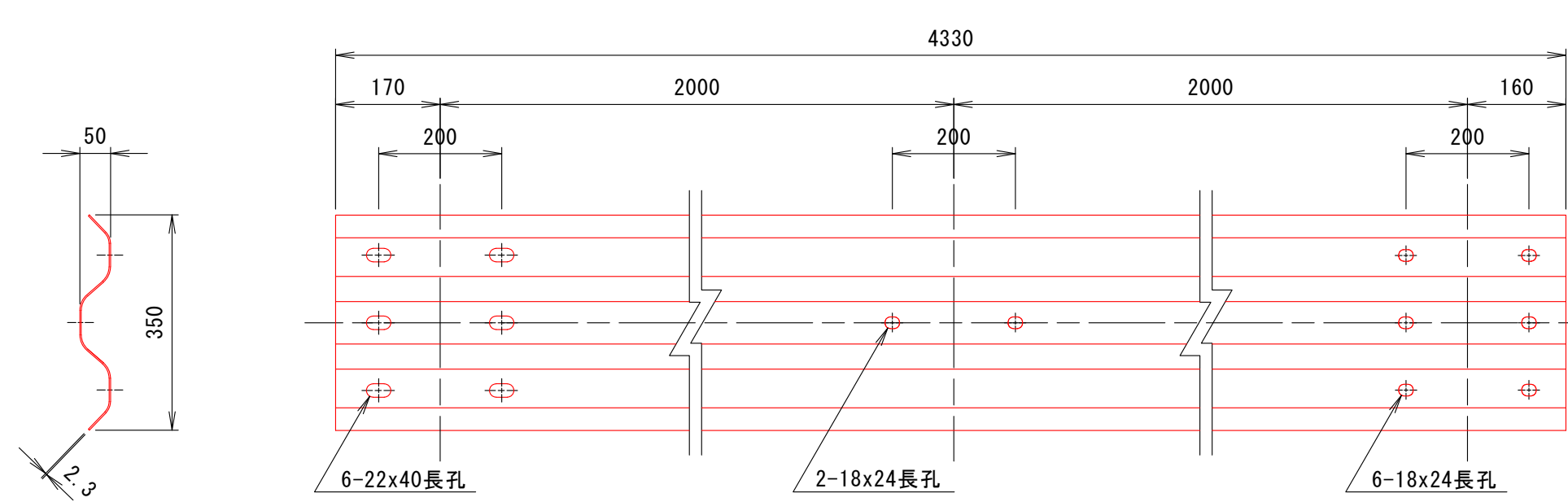
端部笠木 S=1:10



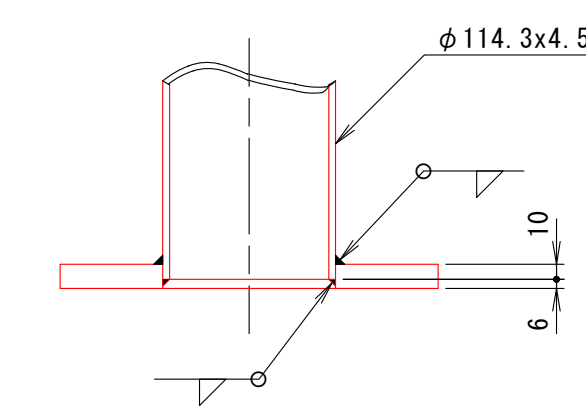
巻袖ビーム S=1:10



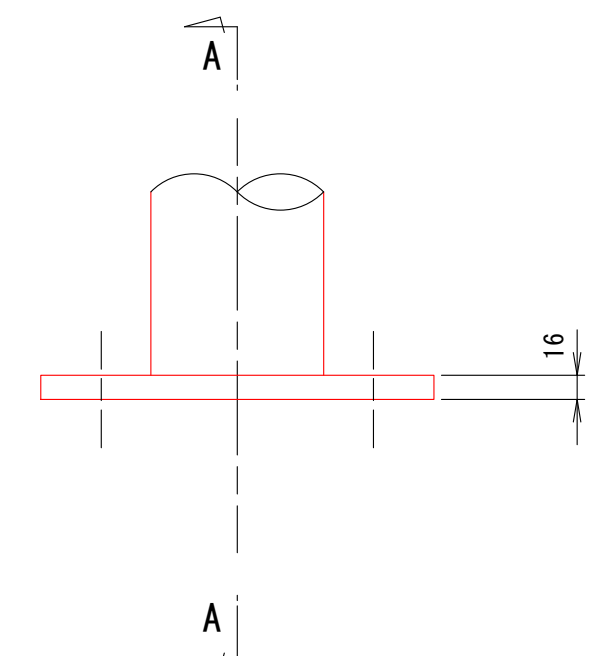
ビーム S=1:10



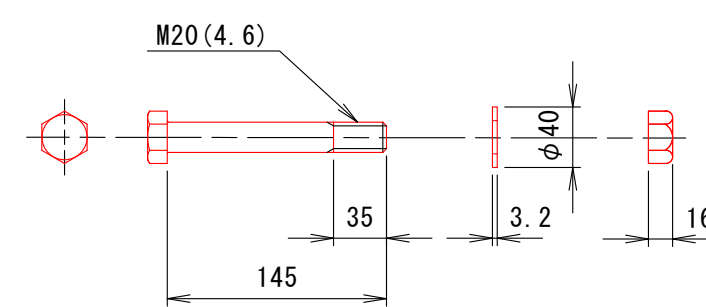
A-A 断面図



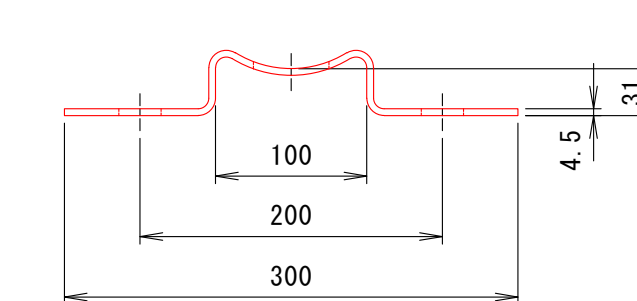
A-A



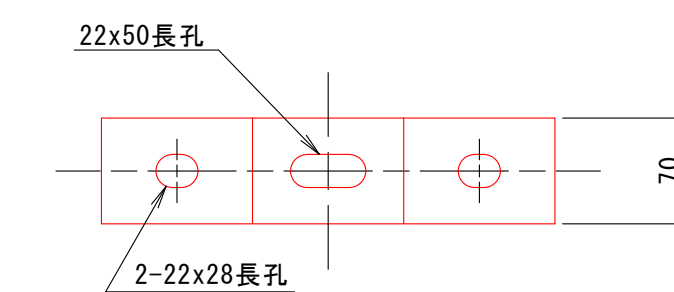
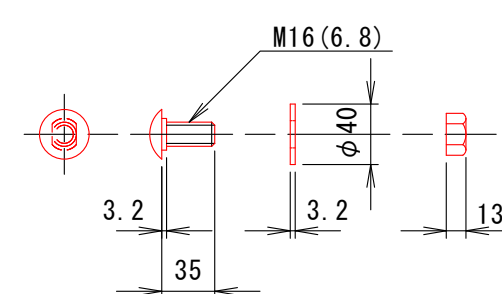
ブラケット取付用ボルト S=1:5



ブラケット S=1:5



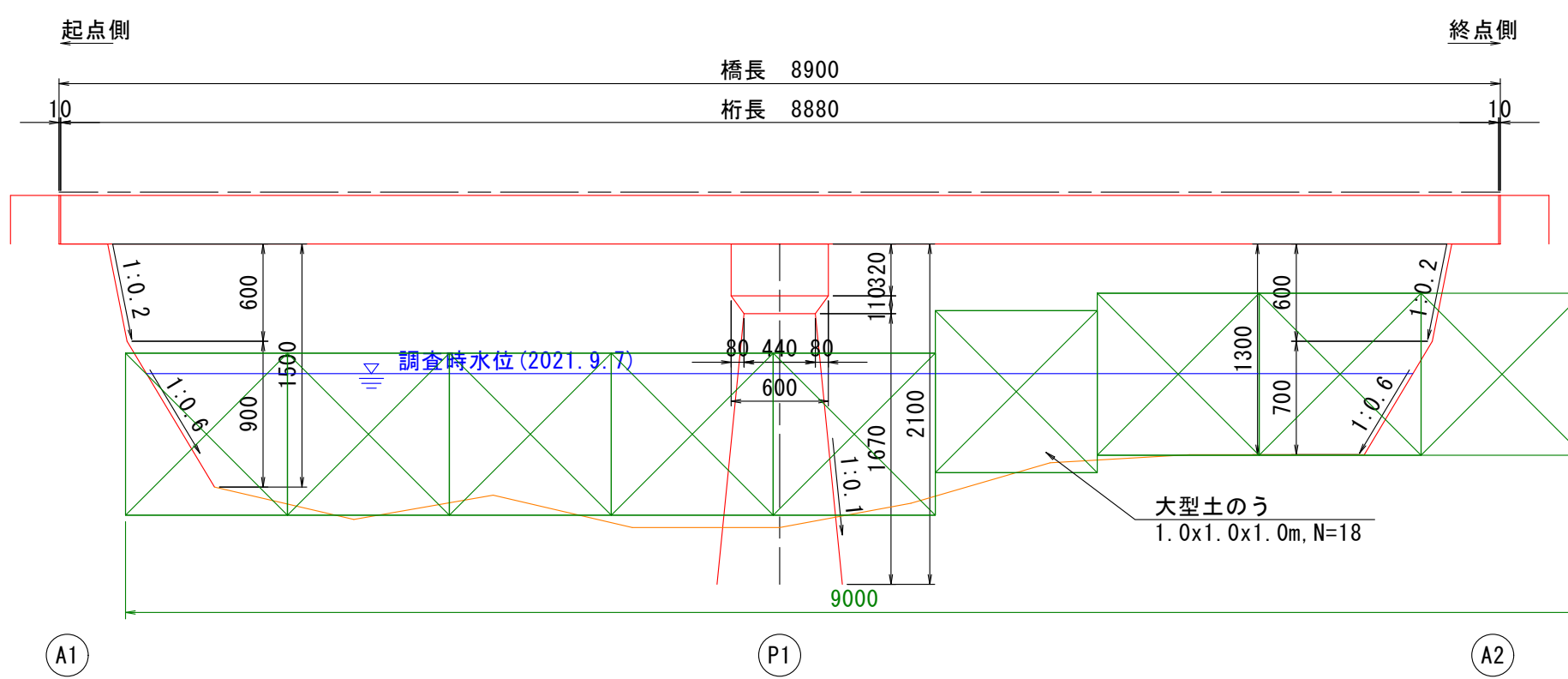
笠木・ビーム取付用ボルト S=1:5



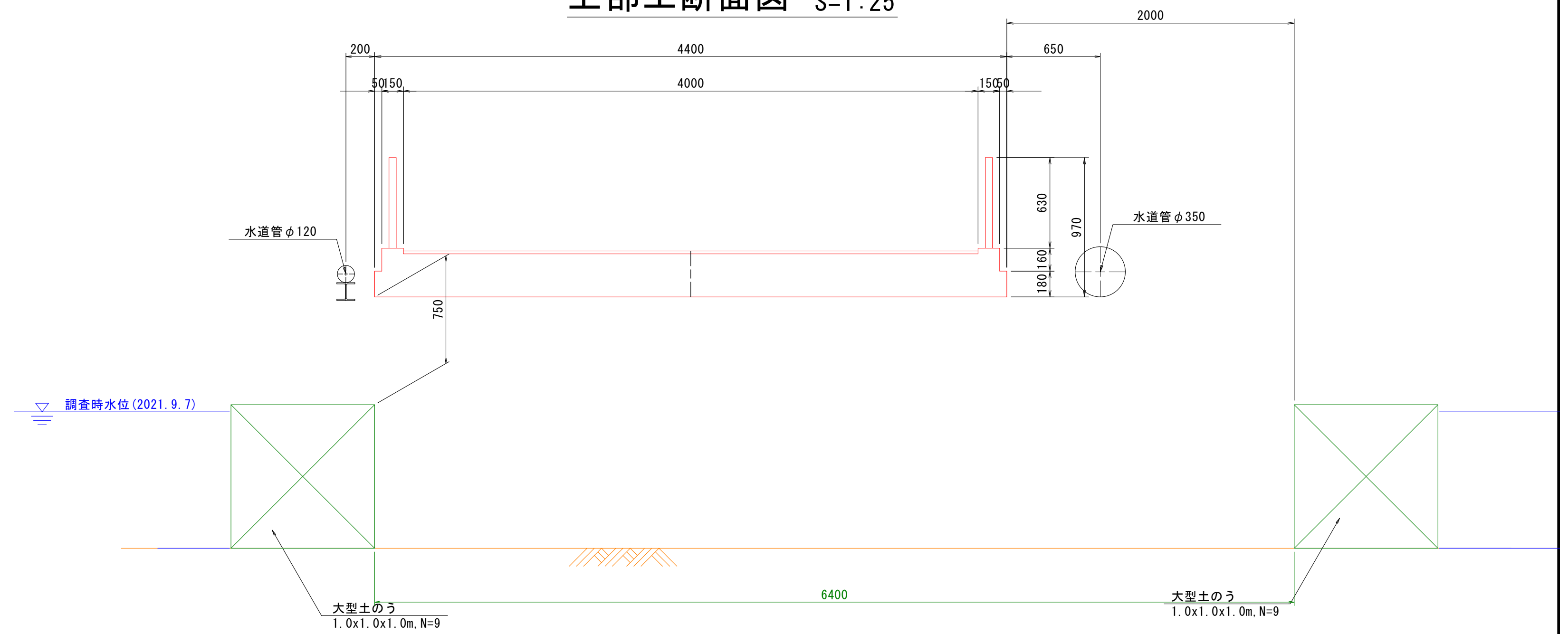
図面番号	第 6 号	図面総数	第 7 葉
工事名称	吉永大幸線2号橋橋梁補修工事		
図名	防護柵取替詳細図(その2) 縮尺(A1) 各図記載		
製作年月	令和5年7月	所属年度	令和5年度
係員	課長	副課長	係長 係員 設計・製図 照査
鳴門市 都市建設部 土木課			

施工要領図 S=1:40

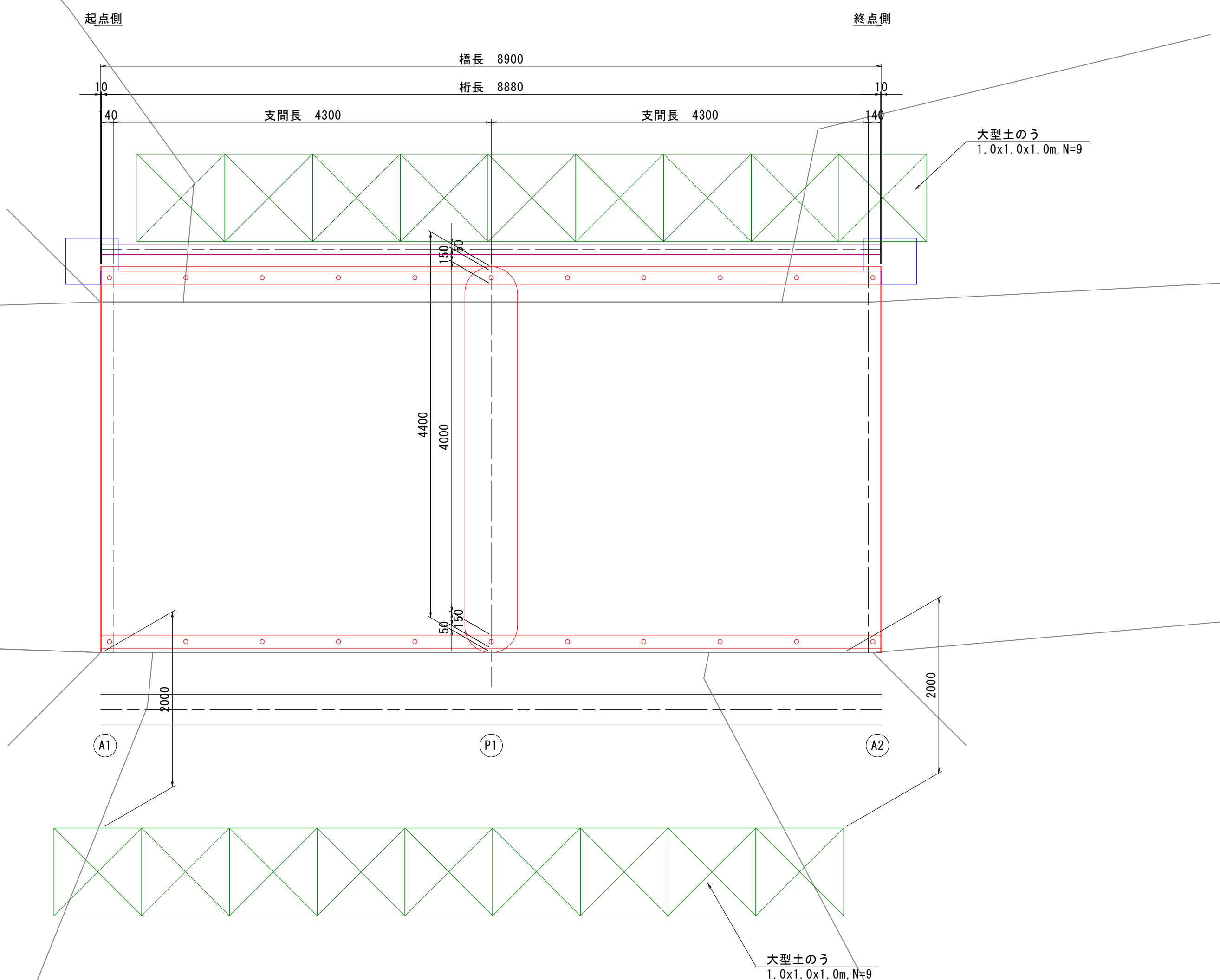
側面図



上部工断面図 S=1:25



平面図



図面番号	第 7 号	図面総数	第 7 葉
工事名称	吉永大幸線2号橋橋梁補修工事		
図名	施工要領図	縮尺(A1)	各図記載
製作年月	令和5年7月	所属年度	令和5年度
係員	課長	副課長	係長
	係員	設計・製図	照査
鳴門市 都市建設部 土木課			